

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・近年は、衝動買いのアクセサリー・小物類、バックなどは売れない状態が続いていたが、今年に入ってから、まとめて買う衝動買いが目立っている。 ・相当数の物件が動いている。設計仲間や施工業者など、知っている範囲ではみな忙しそう。明らかに、昨年や一昨年の同時期とは様子が違う。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費者心理としては支出意欲がやや改善しており、財布のひもが緩んできた感じがする。旅行用品・スポーツ用品など、目的がしっかりしているものが購入に結び付いている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・気温の変化が激しいものの、比較的高額な春物コートや、ジャケットを中心とした初夏物を求める客が続いているため、総合すると売上が増加している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月のスパンで見ると、販売点数が5%前後ずつ増えてきている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・シングル需要が思いのほか盛り上がらなかったが、オリンピックに向けたAV商品が好調である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年と比べて販売台数がやや良くなってきている。来場者数も増えている。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・3月の落ち込みの反動からか、4月の宿泊客は前年に比べて17%ほど増加となる見込みである。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・中国のSARSが回復基調に水を差さないか心配であるが、海外旅行の需要が回復しつつある。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4月は国内旅行が前年比で120%近い伸びとなり、5月も前年比で2けた増の受注状況にある。また海外旅行も欧州を中心に高額商品が売れており、夏休みの問い合わせも多くなってきた。昨年の選挙やSARSの影響から前年比では判断できないが、家族旅行が増加していることは良い兆候である。
		観光名所（役員）	販売量の動き	・ロープウェイ利用客は前年比で1割強の増加を見込んでいるほか、レストラン・売店の売上高も同様の傾向となっている。
		その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・地元サッカークラブの成績不振のため、サッカーの試合時の来場者が減ってしまっているものの、プロ野球チームの本拠地移転に伴い、野球の試合時には前年よりも大幅に来場者が増えている。ただし施設内のショップでは、単価も低く、それほど購買につながっていない。
	美容室（経営者）	単価の動き	・客単価が若干ではあるが高くなってきた。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税の総額表示の導入による戸惑いも落ち着いてきたが、先行きに不安があるのか購買行動はまだ慎重である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・イラク問題や年金問題などの問題も絡んで、積極的に商品を買おうという意欲が客にみられない。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・必要以上の商品は買わないという傾向は相変わらず続いている。小遣いをどこで節約するかというと、昼食代で節約するという傾向が、ここ数年顕著に目立っている。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・客の動き・販売量ともあまり変化がみられない。
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・単価が低くなるのは夏物販売の特徴だが、買上点数も冬と変わりなく、ただ売上が減少している状況である。1点だけ買って満足する客が多いなど、単価の低い商品の1点買いが見受けられる。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・客数は微増であるものの、客単価は700円ほど低く、売上は前年比98%で終わった。
家電量販店（経営者）		単価の動き	・客自身の商品購入時の判断材料として機能重視ではなく、価格重視がはっきり出ている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		住関連専門店 (営業担当)	お客様の様子	・消費税の総額表示の導入により、価格競争も激しくなっているが、チラシ広告や店頭プライスの表示価格の値上がり感も強く、1人当たりの売上個数が減少傾向にある。特にバーゲンに対する反応が鈍く、買い方が慎重であり、売上は前年比98%となっている。		
		その他専門店 [医薬品](経営者)	来客数の動き	・1年前ほどではないが、客数の落ち込みが続いている。客数の減少は落ちるところまで落ちたといった感じた。		
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・ランチは前月同様厳しく、前年比で15%のダウンとなったものの、ディナーは単価アップから、前年比を30%ほど上回った。ディナーは特に後半が良かった。全体では、前月から若干持ち直して前年比90%となった。		
		高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・歓迎会、入学・進学祝いの会合は低調であった。大型連休を前に、外食控えが進んだことで全体の売上が前年比で20%ダウンしている。特にディナーは平日に開店休業状態のこともあり、前年比で30%強ダウンした。		
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・来客数の動きが前年とほとんど変わらず、単価も変わらないので変化はない。		
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・国内旅行は前年よりわずかに伸びているが、海外旅行で中国・香港の動きが弱くなっている。		
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・国内旅行・海外旅行ともに前年を上回っている。しかしながら、前年は米国の同時多発テロやSARSの影響で、海外旅行が最悪の状況であったことを考慮すると、依然として厳しい状況には変わりはない。		
		旅行代理店(従業員)	単価の動き	・ゴールデンウィークの受注が思ったほど伸びなかった。		
		タクシー運転手	お客様の様子	・依然として繁華街への出控えが感じられる。日勤者に対して夜勤者の売上が思うように伸びていない。		
		住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・マイホームセンターに来場する客が前年と比較して減っている。		
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・客の動きも悪いが、単価の低下もみられる。競争相手も非常に動向の悪さが目立っている。		
		やや悪くなっている		スーパー(店長)	販売量の動き	・消費税の総額表示の影響により、以前と比べ割高感を感じる客が多くみられ、買上点数が極端に落ち込んでいる。
				スーパー(店長)	来客数の動き	・季節商品は、3月が好調で推移したものの、4月に入り苦戦が続いている。衣料品は既に初夏物を導入・展開しているが、気温低下により全くの不振状態となっている。一方、食品は牛肉・鶏肉の不振が継続しているものの、豚肉の販促強化が功を奏し、前年比は前月から8%ほど上昇している。
コンビニ(エリア担当)	単価の動き			・前年に発泡酒・ワインの増税前の駆け込み需要があった反動で、前年比が厳しくなっている。		
コンビニ(エリア担当)	販売量の動き			・消費税の総額表示の影響で、客の購入量が減っている。		
家電量販店(店長)	単価の動き			・客数は大きく変わらないものの、単価が低下している。		
一般レストラン (スタッフ)	販売量の動き			・消費税の総額表示の影響から割安感がなくなり、サービスメニューの販売数が減少している。客数・売上ともに前年を10%以上下回っている。		
観光型ホテル (経営者)	来客数の動き			・団体客の小規模化や家族客の激減などにより、道外客・地元客とも客数が減少している。		
タクシー運転手	来客数の動き			・例年、4月は中旬ごろから雪解けとともに暖かくなり、タクシーの利用が極端に減ってくるが、今年は4月初旬から天候が良かったせいか、客の利用が急激に減っている。2月・3月と同様に札幌市内のタクシー売上は前年比で10%程度マイナスとなっている。		
タクシー運転手	来客数の動き			・月末から5月の連休にかけて旅館などの来客数は埋まっているものの、車やレンタカー・観光バスの利用が多く、タクシーには回ってこないため、全体的にやや悪くなっている。		
悪くなっている				一般小売店[土産](店員)	来客数の動き	・イラク情勢・SARSの問題が旅行業界にはマイナスになっている。また北海道観光においてもスキーツアーを始め、団体客の落ち込みがかなり影響している。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・毎年4月は歓送迎会で忙しい時期があるが、今年は忙しくなることがなかった。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明			
企業動向 関連	良く なっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・歓送迎会の時期だが、二次会に団体で流れることがなくなったようだ。			
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・法人向けの需要にも回復の兆しがみえてきた。			
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・競争相手先における材料の調達に困難な状況の中で、材料を確保できる企業が受注を受けられるようになっている。			
	やや良く なっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・本州向け商品の発送量が多くなり、工場はフル生産に近い状態が続いている。			
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注が増えてきたのと並行して、価格が高めのサービスも機能が良ければ利用したいという声が増えてきた。			
	変わらない	その他非製造業 [機械卸売] (従業員)	取引先の様子	・デジタル家電や自動車パーツ用のプラスチック金型の国内向け受注が絶好調であり、金型製造企業では短納期を要求され、土日はもちろんゴールデンウィークも出勤して注文を消化している状態にある。			
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・先月までは少し良くなってきた製造メーカーも、ここにきて原材料等の高騰から採算ラインがきつくなり、生産調整の動きが出てきた。			
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備資金の需要は相変わらず乏しい。地場の鉄鋼・金属製品メーカーは素材価格の急騰を製品価格に転嫁できず、収益面が厳しくなっている。			
		司法書士	取引先の様子	・道外の一部地域において、景気が上向いているようにマスコミで報道されているが、北海道は依然として変化していない。特に建設業や不動産業が伸び悩んでいるのが特徴である。			
	やや悪く なっている	-	-	-	・少ない商材に競合が激しく、受注価格も採算に合わない水準にならざるを得ないケースがある。		
悪く なっている					-	-	-
悪く なっている					-	-	-
雇用 関連	良く なっている	-	-	-			
					やや良く なっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設業の求人件数が前年比で15%増加しているほか、サービス業も堅調に推移している。			
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設関連や居酒屋などの飲食業の求人が若干伸びてきている。前年との業種比較でも伸びてきている。			
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は4か月連続で増加している。特に、食料品製造業やサービス業での増加が目立っている。			
		学校[大学]	求職者数の動き（就職担当）	・新年度に入り、企業からの求人が突然ある。来年度の採用も拡大するようである。			
		求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・求人広告掲載件数にあまり伸びはないが、正社員の求人が業種全体にわたり、若干であるが増加傾向にある。			
		新聞社[求人広告]（担当者）	雇用形態の様子	・求人件数はほぼ前年並みであるが、依然として契約社員、パートの求人が多く、賃金は極めて低く抑えられている。特に運転手の募集は大型免許所持者でも日給7千円台という企業もある。			
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・新規求人は増加しているものの、そのほとんどはパート求人である。			
	やや悪く なっている	-	-	-	・管内の有効求人倍率は0.44倍で、前年と比べ0.03ポイント上回ったが、パート求人への占める割合が高く、雇用環境は引き続き厳しい環境にある。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	-	-	-

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・受注が、数が月振りに前年実績を超え、106%となっている。また3か月前との比較は227%で、良くなっている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・今月中旬ごろから、物販の足踏みが見られる。ゴールデンウィーク前は例年こうした動きが出るものの今年はその傾向が著しいため、レジャー熱が再燃する兆しかもしれない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・消費税総額表示に対する各店の催事等の成果が多少出ている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・桜の開花が1週間ほど早まり、各イベントの予定が狂っている。また花見が満開の辺りに寒波が来たため、家族での花見という健全なスタイルが増え、景気にはあまり好影響を与えていない。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・写真業界では、これからがシーズンインとなるので販売量が伸びている。 ・デジタルカメラやカメラの新製品投入が続いており、それによる販売量が伸びている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・このところ競争相手の出店が一段落し、客数が戻ってきている。しかし客単価は相変わらずである。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・総額表示により、当地は大手スーパー2社が内税、外税等の両面表示にしたため、客が混乱した。しかしそのために割安感が出て買い付きが良くなっている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・依然として客の買物動向や、金を使う姿勢に極端な変化は見られないが、来客数等の動きに多少明るさが見えてきている。競争状態は依然厳しいが、客数の面で少しずつ明るさが見えてきている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客数は前年と比較して大分底上げしているが、客単価が前年を割っている。客単価が7%ほど下回っている状況であり、単価を客数でカバーしている状況である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は依然として前年を割っているが、来客数はここ数年の中で一番の伸びを示しており、売上は前年実績をクリアしている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今月前半は気温が高く、アイスやドリンクの販売が好調である。消費税内税表示もマイナス要素にはなっていない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・去年と比べ天候が順調で、SARS等の影響がなく、旅行需要が高まっているため、ジャケットが好調で、このアップ分が良い。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・客単価上昇という状況が続いている中、1人当たりの買上点数が増加しており、加えて売上構成要素の1つである客数が回復傾向にある。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新車受注量が前年比115%強である。
		その他飲食〔そば〕（経営者）	来客数の動き	・単価は相変わらず低いままであるが、3か月前に比べ来客数が曜日に関係なく増えており、売上は18%増えている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・今月は、昨年に比べ、団体客の比率が高く、入込数が増加している。特に信金や簡保関係の客が目立っているが、売上は依然として低単価のため横ばいである。 ・日中は、電気店等の新商品の展示会等が入り、集客、売上ともに好調である。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・周囲は決して良くないが、周辺の旅館に比較して当社は3～4月は比較的堅調である。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話から発信される通話が増えてきており、全体的な通話が増えている。	
	競艇場（職員）	単価の動き	・入場人員はやや減少しているが、1人当たりの購買量が増加している。全体的な売上は減少傾向にある。	
	美容室（経営者）	販売量の動き	・カットやパーマ以外に、整髪料等を購入する客が増えている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・最悪の状況は脱し、やや良くなっている状態がずっと続いているが、それ以上に良くなるという消費の体力が回復していない。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・3か月前の売上と比べ、多少は良くなっているが、当市内の百貨店は昨年より1店少ないのに、売上があまり変わっておらず、あまり良くなってはいない。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・物販や催事関連は依然好調であるが、この時期のポイントである返礼ギフト等の需要が例年より慎重な動きで苦戦している。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・ファッションは、気候が比較的良くリニューアル効果もあって順調に推移しており、入店客数、売上ともに前年実績を超えている。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・今の時期、例年であればボーナス払いで購入する客が多いが、このところボーナス払いで大きな買物をする客が少なく、買物を控えて、見るだけという客が多い。
		百貨店（販促担当）	来客数の動き	・来客数の減少、特に夕刻のキャリア層の集客が少なくなっている。またデイリー商材が苦戦し、それを身の回り品でカバーしているのが現状である。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・総額表示に対し、生鮮で価格訴求対策を実施した。食肉の単価は若干回復しているが、青果や水産の価格が低く売上が落としている。反面、加工食品は買上点数が増え、単価もあまり低下せず、既存店における食品は前年並みを保っている。住居関連の落ち込みが大きく、衣料品の単価低下が大きく、既存店全体ではやや落ちている状況であるが、全店舗ではプラス4%となっている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・先月同様、陽気が良くなってきても、歩行者が少なく、客数も伸びていないため、悪いまま変わっていない。
		衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・販売動向の二極化が進んでいる。高齢層では高額品も売れているが、それ以外の層では低価格商品に流れている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・個人、法人需要ともに販売量が少なく、車検受けによる保有延長等、商談があっても時間が長引き、値引き要求が大きくなっているのが現状である。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・輸入車販売では、3月は昨年を上回る登録台数を達成できたが、今月に入ってから厳しくなっている。
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・スプリングコートやジャケット等の高単価商品の価格が、昨年より約2割低下している。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・先月よりは売上が好転しているが、良い月と悪い月が交互に来ている。
		その他専門店 [家電]（経営者）	販売量の動き	・販売量、売上は前年並であるが、高単価商品の動きが鈍く、全体的な販売額の目標に達しない。客単価向上が当面の課題である。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	販売量の動き	・既存店ベースの販売量が前年割れで推移している。 ・総額表示により、末端価格が大幅に値上げしたという印象を持たれ、販売数量が伸びない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・競合店の相次ぐロードサイド出店により来客の分散化が進み、前年実績を下回っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	競争相手の様子	・3か月前と変わらない。4月上旬に新しいビジネスホテルがオープンしたが、この影響はまだ分からないが、これからは予断を許さない状況となる。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊関係が極端に悪化し、利用人員が減少し消費単価が低下し、4月度としては過去最低である。 ・個人と団体では、特に個人の動きが悪く、インターネットによる予約が主流であり単価も極端に低下しており、一過性のものでなく当面続きそうな状況である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内旅行の販売は落ち込んでいるが、ゴールデンウィークの海外旅行が若干伸びており、全体ではあまり変わらない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・業界では、固定電話携帯電話へのサービスが始まっている。ある程度のシェアを取ることが重要であり、各電話会社での価格競争が始まっている。商品が発売されて1か月以内に対抗値下げ行われ、利益も減少している。
		テーマパーク（職員）	単価の動き	・入場者数は昨年実績よりも増えているが、最終的な客単価は低下している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・異業種とのアベックイベントによる展示場集客増を試みたが、思ったほど客数が伸びない。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	競争相手の様子	・市内の競合店が2km圏内に、自社1番店を出店したため、その影響による売上等の減少が顕著である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税総額以降、買上点数が前期比92%、個数で0.8個と大きく落ち込んでいる。客数や一品単価は前年並であるが、買上点数の落ち込みで売上が大きく減少している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・500m圏内にある競合店が改装し、その影響を月の後半受けている。自社競合も含め、競合の激化は解消されず、一段と激しくなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税総額表示により、消費者が割高感を感じている。値上げをしたわけでもないのに値ごろ感がなくなり、売上が減少している。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・総額表示実施以降は販売点数の減少が著しく、企画を強化しているが大変厳しい状況である。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・ゴールデンウィーク前のせいか、特にサラリーマン客の買い控えが目立っている。また他業態の影響で、低価格帯商品への移行も進んでいる。こうした傾向は税収の減少を生み、更なる増税を加速させる。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・何度も来店し、なかなか購買にまで至らないケースが多い。 ・昨年実績をクリアできない月が多い。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	販売量の動き	・17日にリニューアルオープンした店舗があるものの、大きな割引がなければ全く売れない。
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・近くに出店した複合店に飲食施設もオープンしたため、ランチタイムの客が大きく減少している。	
	都市型ホテル（スタッフ）	競争相手の様子	・先日、伝統ある老舗リゾートホテルが会社更生法を申請した。市内でも繁華街に位置する稼働率70%を維持していたビジネスホテルも経営者が代わりレストランをコンビニに改装中であり、全体的なムードが良くない。	
	悪くなっている	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・花見客が繁華街に立ち寄りなくなっている。 ・新入社員歓迎会も1次会で帰る客が増えている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・来客数が減少し、買上点数も買上単価も低くなっており、厳しい状態になっている。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・消費税総額表示になり、割高感が強まり、客の購買意欲が減退している。客単価の下落が一段と厳しくなっている。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・一品単価の下落と客単価の下落が進行中である。
スーパー（店長）		お客様の様子	・今まで以上に特価品の買い回りが当たり前になっていて、必要のないものは全く買わないという傾向が一段と強まっている。	
スーパー（店長）		来客数の動き	・消費税総額表示により競合各社で、消費税込みで総額表示前の価格据置を行い、これまで以上に価格競争が激化し、客数、売上ともに減少している。	
企業動向関連	良く なっている やや良くなっている	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・ここ8か月以上、売上は前年実績を下回っているが、特に今月は20%以上のマイナスである。
		タクシー運転手	販売量の動き	・21年タクシー運転手をやっているが、今の状況は本当に大変である。朝の5時から翌朝2時まで乗務しているが、3万円に達しない日が増えている。
		-	-	-
企業動向関連	良く なっている やや良くなっている	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・アイテム別の動きに差はあるが、トータルでは受注量が増えている。しかし大型連休の前倒し分もある。
		輸送業（従業員）	取引先の様子	・大型連休前に、各社共荷動きが活発になり、特に輸入の生鮮物の動きが良い。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・ここしばらく途絶えていた営業マンの社員教育等、前向きな教育やセミナーのニーズが増えている。
		コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・会社の目標をクリアすることが努力次第で何とかなるような状況になってきている。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・安値安定の受注に変わらないが、これまで売れなかった商品でも幅広く浅く売れるようになってきている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・広告用のパンフレットやチラシ等の印刷物の納入価格が若干低下しているが、種類や量が以前より増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	その他企業〔管理業〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・連休も、一部の工場では休まず操業するほど忙しい。
		食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・4月からの総額表示への移行に伴い、スーパーや量販店での売上低迷の声も聞かれるようになり、スポット条件的な価格対応も出始めている。
		出版・印刷・関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・当社の売上は、1月から前年割れが続いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・設備関係及び半導体は繁忙となっているが、引き合い物件は短納期対応がほとんどであり、部材調達が間に合わず業績的には良くならない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・景気の底打ち感があり、企業倒産件数は減少している。しかし一般企業の設備投資は回復しておらず、個人消費についても住宅着工数やマンションの売行き等が今一である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・これまでチラシを入れた事がなかった地元企業のチラシが時折入るようになってきている。また全般的にチラシが増えている。 ・購読客では、まだ厳しいという人が多い。
	やや悪くなっている	公認会計士	受注量や販売量の動き	・景気が下げ止まりとか、上向き等と言われているが、取引の実態には一向にそうした様子が現れてこない。
		繊維工業（総務担当）	取引先の様子	・得意先は、リスク回避のため展示会での発注を抑え、売れ筋をつかんでからの現物発注に傾いている。年間の売上見通しが立たなく、不安定な受注が続いている。
	悪くなっている	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・工事量の減少に加え、鋼材価格の上昇分が契約や設計変更で反映されず、利益の確保が厳しくなっている。
雇用関連	良くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・今までは合理的な派遣社員への代替という引き合いが多かったが、ここに来て増産体制や前向きな営業強化や増員等といった引き合いが増えている。
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	雇用形態の様子	・最近若い人の雇用形態が、紹介予定派遣に変わってきている。企業の採用に変化が見られるようになってきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・特にサービス業において、ここ数年求人を止めていた会社が求人を再開する動きが全般的に目立っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数は前年に比べやや増え、今年に入り回復傾向にある。地元企業の求人数は横ばいであるが、東京分が増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・求人は、製造業を中心に全体としては緩やかな回復基調にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数はパート求人の大幅な増加により3か月振りに前年同月比でプラスになり、合わせて求職者数についてもパート求職者数の大幅な増加により16か月振りに増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人の増加傾向が続き、有効求人倍率もワンステップ上がった状態になっている。しかし今後の動きについては見守る必要がある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前辺りから徐々に良くなってきており、その状況は変わっていない。去年と比べずっと良い雰囲気、求人数も堅調に推移している。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・派遣請求単価の相場が下がり、それが支払にも影響しているのか、登録者数が前年に比べ減少しており、先々の売上への懸念が出てきている。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・求人数は増えているが、依然として非正規型の不安定雇用が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数については現在伸び悩みの状態であるが、求職者も減少しているため、有効求人倍率は横ばいで推移している。
	やや悪くなっている	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	アウトソーシング 企業（社員）	周辺企業の様子	・同業他社のシェアを取らなければ生き残れない状況 である。

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・客の動きが活発になっており、歓迎会、花見など予約客も多く、売上が増加している。		
		一般小売店〔精肉〕 （経営者）	お客様の様子	・食肉関係の病気も一応落ち着き、気候が良くなって客が動き出してきたので、売上も上昇する。		
		一般小売店〔金物〕 （経営者）	販売量の動き	・材料関係の値段が、中国、アメリカへの輸出等の関係でかなり上がっているが、価格の上昇にもかかわらず、数量的にはあまり減らないで売れている。		
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・毎月テーマを決めてイベント、企画を実施し、前向きに攻めの姿勢で取り組んでおり、4月はゴールデンウィークを前にトラベルフェア、コーディネートフェアを開催している。5、6月は夏のパターンオーダーフェア、父の日セールで黄色いハンカチをプレゼントということも考えている。		
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・主食以外の商品、酒、デザート、飲物、珍味等の販売が前年を上回る傾向にある。全体の販売量も前年実績をクリアしている。		
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・大きな祭りがあったため、売上の底上げができています。日々の販売も、試食や単品の集中販売といった取組が功を奏して、売上の回復につながっている。前年度比で売上が120%、来客数が113%とそれぞれ向上している。		
		衣料品専門店 （経営者）	競争相手の様子	・近隣に出店したスーパーの影響で、人の流れが変わり、商店街に客が戻ってきている。		
		乗用車販売店 （販売担当）	販売量の動き	・3か月前と比べ、中古車の売行きが激しく伸びている。身の回りの景気が良くなったことが原因かもしれないが、宣伝をすれば中古車の販売量が順調に伸びていくという状況なので、良くなっている。		
		一般レストラン （業務担当）	販売量の動き	・年度替わりに関連する、各種団体（商工会議所関連、法人会、その他）の総会、懇親会に関して、前年の実績を下回ることなく獲得できているのでやや良い。		
		スナック（経営者）	来客数の動き	・今年は割合桜の時期が長かったため、花見に客を取られてしまい、フリー客の動きは今一つであるが、例年と比べて宴会の流れは比較的良く、それほど落ち込んでいない。		
		都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・前年度に比べて、歓送迎会が増えている。3か月前と比べ、宴会、宿泊、各レストランの客数が若干増加している。		
		タクシー運転手	来客数の動き	・飲み屋からの呼出しが若干多くなってきている。週末、特に金、土曜日は増えている。		
		タクシー運転手	お客様の様子	・4月は歓迎会の時期でもあり、金、土曜日の人通りが多く、利用客が増加している。単価は1,500～2,000円程度で、飲食店から駅までの利用が多い。		
		遊園地（職員）	単価の動き	・ゴールデンウィーク前半は、好天にもかかわらず客足の伸びが鈍いものの、利用単価は前年比で約200円上昇しており、客の消費意欲は上向きつつある。		
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・2～3か月前は来客数がかかなり厳しい状況にあったが、それと比べると現在は動きが良い。かなり忙しく、下請に発注している状態である。		
		住宅販売会社 （経営者）	来客数の動き	・客が最近積極的に物件を検討するようになっており、良い条件の物件の場合は返答が速く、成約に至ることが多くなってきている。		
		変わらない		商店街（代表者）	販売量の動き	・消費者に商品が行き渡っているのか、とにかく売上が伸びない。卸業も小売業も同じ状況である。
				百貨店（店長）	販売量の動き	・3月は前年の売上実績を達成することができたが、4月は前年の96%台となっている。
				スーパー（経営者）	単価の動き	・総額表示に伴い、販売価格の設定が難しくなっている。4月1日以前の外税表示の売価を内税扱いとして販売しないと売れないような状況が続いている。
スーパー（経営者）	単価の動き			・4月から実施されている総額表示の影響もあるかもしれないが、前年比を3か月前と比べると、客単価は2.5%程度、買上点数が3%減少している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（統括）	販売量の動き	・4月中旬の気温上昇により、初夏物衣料が好調な動きとなっている。来客数は変わらないものの、総額表示導入による値ごろ感の喪失から、買上点数が3～5%落ち込んだが、マスコミによる景気の回復基調報道の影響もあり、月半ば以降は徐々に前年並みの買上点数に戻り、月末には前年を上回る勢いである。落ち込んでいる客単価も、少しずつではあるが確実に上昇している。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・新製品や景品が付くような目新しい商品があると若干動きが出てくるが、特別購買意欲をそするような商品がない場合は変わらない。
		住関連専門店（店長）	単価の動き	・客単価が低下しており、厳しい状況は変わっていない。
		高級レストラン（店長）	来客数の動き	・会社関係の顔合わせや、歓迎会などをランチで簡単に済ませる傾向が定着しつつあり、ディナータイムの宴会予約が減少している。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、集宴会は前年並みであるが、婚礼、レストランの売上が低調であることから、全体では前年よりマイナスとなっている。
		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・例年同様にゴールデンウィークの来客数は増加しているものの、その分、他の時期の受注が減少しているので、変わらない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・歓迎会や花見でタクシーを利用する客が予想に反して少なく、全体的にみても営業回数が目立って減少している。
		観光名所（職員）	お客様の様子	・7年に1度の祭りがあり、祭り関連の商品は前回以上の売上となっているが、その他は例年並みである。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・土日祝日の来場者数は安定しているが、平日は非常にばらつきが大きい。また、平日客はコースを料金で選択する動きが根強く、民事再生法適用後に大幅に値下げをしているコースに行ってしまう。
		競輪場（職員）	お客様の様子	・来場者数は減少し、購買単価は低下している。
		その他サービス [自動車整備業]（事務長）	競争相手の様子	・同業のフランチャイズ店の在庫も若干減少しているようである。仕事の少ない週には、週に2度休んでいる。法人客とは別に、女性を含めた一般客の獲得に必死である。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・仕事の受注は相変わらず少ない状況であるが、今までにない相談や問い合わせが多く、個人住宅の建設意欲が感じられるようになってきている。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・住宅用の土地は、立地、環境が良くて特別安くないと売れないという厳しい状況である。単価は下落傾向にある。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・客は物件を購入したい素振りを示すものの、値段交渉が強く、なかなか成約には至らない。賃貸でも依然として賃料の値引き要求が激しく、デフレ現象が一層進んでいる。
	やや悪くなっている	一般小売店[青果]（店長）	それ以外	・地域内の同業店が4月だけで2軒閉店しており、本当に大変な時期である。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・消費税総額表示の影響のためか、買い得商品を掲載した売上の販売高が低下している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・3月までは前年比105%と上向きであったが、4月に入り前年を下回っている。内税表示になってからは500円以上の弁当類が全く売れなくなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月の受注ペースは前年比70%とやや悪い。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・4月1日の総額表示導入の影響で、販売数が減少している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・月の前半は非常に良かったが、後半は大きく売上が落ち込んでいる。客の回転が悪く、依然として来客数は低迷している。
	悪くなっている	スーパー（店長）	お客様の様子	・大規模競合店の出現と消費税の総額表示が原因で悪くなっている。客は総額表示を支持しておらず、高くなった、値段に慣れていないので買いづらいということから、販売量、単価、全てが悪化している。
		スーパー（経営企画担当）	販売量の動き	・4月1日からの消費税総額表示により客が割高感を感じるようになり、1人当たりの買上点数が減少し、売上に影響している。月の後半にかけて徐々に回復はしているものの、以前の買上点数にはまだ至っていない。全社ベースでの4月の売上は前年比95%となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・春物ブルゾン、ジャケットなど羽織物の売上を見込んでいたが、暑い日が続いたため、カットソーやTシャツなど、低単価商品中心の動きとなり、思うように売上が伸びていない。
企業 動向 関連	良く なっている	輸送用機械器具 製造業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・4月は中間決算となるが、前年比での経常利益が20%増となる見込みである。3か月前と比較しても、前年比での売上が15%増であり、景気は上向いている。
	やや良く なっている	金属製品製造業 （経営者）	取引先の様子	・このところ工作機械の大手メーカーである親会社から、従来にはないような金額の高い機械の引き合いが出てきている。これは工作機械や精密機械メーカーが設備投資をし始めたということなので、明るい兆しである。
		一般機械器具製 造業（生産管理 担当）	取引先の様子	・しばらく注文が途絶えていた取引先数社から、仕事が間に合わないので手伝ってほしいという依頼が入っている。また、協力工場各社も仕事を相当抱えている様子である。
		その他製造業 〔宝石・貴金 属〕（経営者）	受注量や販売量 の動き	・今月行った展示会の来場者数、売上はいずれも前年を上回っている。
		輸送業（営業担 当）	取引先の様子	・取引先の中では、ホームセンター系の雑貨商品等の出荷量が好調で、前年を上回っている。
		金融業（調査担 当）	取引先の様子	・建設業者の倒産がやや減少している。製造業では、下請業者の仕事が多くなってきている。
		新聞販売店〔広 告〕（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・折込チラシの受注量が前年比107%と、4か月連続で前年を上回っている。また、大型ではないものの新規出店があり、首都圏からのチラシが増加している。
		経営コンサルタ ント	それ以外	・経営革新を図ろうとする企業や規制緩和に関連する分野の企業などで、新しい事業計画に着手するところが出てきている。
	変わらない	食料品製造業 （営業統括）	受注量や販売量 の動き	・出荷動向は一部に堅調な動きがみられるものの、需要全体の低迷や輸入ワインとの競合から、生産、出荷とも苦戦している。
		化学工業（総務 担当）	受注量や販売量 の動き	・建設、構築物関係に回復の兆しはなく、鉄骨を溶接する際に使用する酸素、アセチレン、炭酸等にはまだ春が来ていない。
		窯業・土石製品 製造業（経営 者）	取引先の様子	・取引先の売上高が徐々に増加傾向に転じているものの、一部の製品のみであり、具体的な受注にはつながっていない。
		建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・新規の受注が増えない上に、鋼材等が値上がりしており、採算が悪化している。
		広告代理店（営 業担当）	受注量や販売量 の動き	・広告に対する反響からみると、消費者の購買意欲は悪くはない。地方経済は決して回復してきたとはいえないが、マインドは若干回復傾向にある。広告受注も昨年比105%とわずかながら伸びている。
		その他サービ ス業〔放送〕（営 業担当）	受注量や販売量 の動き	・商業、サービス業、流通業からのスポットコマースの受注が上向いているが、受注期間が短く、小口化している。また、イベント受注が減少している。
やや悪く なっている	窯業・土石製品 製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・例年に比べ、受注量の動きが悪くなっている。	
悪く なっている	建設業（総務担 当）	取引先の様子	・民間工事の土木設備の関係で、取引先から支出を極力抑えたいので、人員は用意するから現場作業の指導監督のみをお願いしたいという相談を受けている。	
	不動産業（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・以前の価格からは考えられない受注価格の仕事しかなくなっている。	
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	求人情報誌製作 会社（経営者）	求人数の動き	・周辺エリアの求人広告は依然として順調な伸びをみせており、特に来月の募集が増加している。アウトレットでの20社120名の募集に対しては、200名の応募が来ており、順調である。
		求人情報誌製作 会社（経営者）	周辺企業の様子	・求人情報や広告等の宣伝に経費をかける周辺企業が目立ち、受注がかなり増加してきている。
		新聞社〔求人広 告〕（担当者）	求人数の動き	・これまでは景気の悪い話しか出なかったが、最近では景気が良さそうな事業所、個人が増えており、求人広告も若干増加傾向にある。
	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は増加傾向にあり、有効求人倍率も4か月連続で0.8倍台を維持している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が9か月連続で上昇している。また、就職者数も3か月連続で増加している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・技術職、専門職、製造現場の求人が多く、建設、土木、不動産関係が低調という状況や、事務系の求人が狭き門であることは変わっていない。サービス関係の求人数はアルバイト、パートを中心に多くなっている。
	変わらない	求人情報誌制作会社（経営者）	求人数の動き	・依然として求人形態は厳しい。正社員の募集は少なく、パートや派遣社員が多い。中高年の募集は特に少なく、厳しい状況である。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数は年未年始と比べると増加しているが、前年同時期比では減少している。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	求人数の動き	・今春の卒業生に対する求人問い合わせは、事務職を中心に数件きている。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・4月に入り、何十か月ぶりに販売量が前年水準を超えている。
		家電量販店（営業統括）	販売量の動き	・消費税の総額表示により、一時的に販売量が減少したが、客が価格設定や表示に適應するとともに、販売量も増加している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外旅行の動きが、3か月前と比較して200%程度伸びている。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・予約が上限まで埋まることがある。
	やや良くなっている	一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	お客様の様子	・4月は気温が非常に高く、春夏物の商品の動きが良い。特に、近隣寺院の植木や藤の花の満開で人出が増えたことから、売上が上昇している。
			百貨店（広報担当）	販売量の動き
		百貨店（統括）	販売量の動き	・気温、天候が安定し、婦人のジャケットや紳士のスーツ等の動きが活発化している。来客数も増加し、食品、食堂等の売上も良い。ただし、高額な絵画や宝飾品類はいまだに前年に達していない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・酒類販売の免許が下り、徐々に食品部門の売上が伸びている。
		スーパー（統括）	来客数の動き	・客は買い回りをしており、売上そのものには結び付いていないが、2、3月に続き、来客数は若干増加している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・酒の販売が始まり、来客数が107%に増加しており、売上を押し上げている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・夏日が続き、これまではジュースを1本購入していた客が、プラスアルファの商品を購入するようになってきている。
		家電量販店（店長）	それ以外	・それぞれの分野ごとにヒット商品、注目商品が出てきている。生活家電では食器洗い乾燥機、AV機器ではデジタル家電関係といった注目商品に対する客の購買意欲が見え始めている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・4月の薄型テレビの販売台数が、ここ数か月の中で最も多くなっている。DVDレコーダーの売上も顕著に伸び、パソコン関係の商品についても、サブノートを中心に徐々に上向いている。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・来客数の増加に加え、客からの値引きの強要等が減少している。
その他専門店〔眼鏡〕（店員）	単価の動き	・天候の回復とともに来客数が増加しており、それに伴い販売量も伸びるとともに、付加価値商品の選択により、買上単価も上昇している。10万円以上の高額商品の動きが良い。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・サラリーマン層が飲みに来る機会が増加している。
		スナック（経営者）	お客様の様子	・客から、残業等が増加しているという話を聞く。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・個人消費が伸びている。昨年の結婚式の件数が、期末で40件上昇している。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・SARS問題により海外からの宿泊客が激減した昨年に比べ、今年はかなり上向いている。パールの売上も、4月は昨今になく好調である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外需要は、団体が少ないものの、個人旅行を中心に堅調である。国内需要は間際になっての申込みもあり、動きが出ている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・個人旅行の動きが良くなっている。単価の高い宿を選ぶ客も多く、旅行への関心は高まっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・タクシー料金の値下げにより、客に選ばれるようになっており、やや上向いている。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・多チャンネルケーブルとケーブルインターネットの両方を申し込む客が少しずつ増加している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・月次の契約獲得面では実績に結び付くまでには至っていないが、営業部員の日報等から顧客反応の変化や好感度等、改善の兆候がうかがえる。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・デジタル新サービスの予約が好調である。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数が前年比で40%増加している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来店サイクルが短くなってきている。
	変わらない	商店街（代表者）	単価の動き	・客は必要なものしか購入せず、高価なものは購入しない。安い日用品を購入しに来るため、客単価が低下している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・4月1日より内税表示方式になり、値上げ感が販売に響いている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・見積り依頼は増加しているが、設備投資等には結び付いていない。
		一般小売店〔CD〕（営業担当）	お客様の様子	・商品を購入するかどうかの客の判断基準が、より厳しくなっている。高額な商品の買い控え傾向も続いている。
		百貨店（総務担当）	単価の動き	・現在、一部改装中で来客数は減少しているものの、客単価は上昇している。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・4月は、高級雑貨、家具寝装など高額品が好調であるが、婦人服、紳士服は依然として不振が続いており、消費の回復はまだら模様である。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・開業30周年記念の打ち出しを行っており、記念品、限定品の動きは良いが、逆に通常商品の動きが悪い。全体的には、減少傾向に変化はない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・4月からの税込みの価格表示対策として、98円、100円等、今までの見慣れた数字を税込み価格とした商品の動きは良いが、消費税分をそのまま上乗せ表示した商品の動きは鈍くなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は昨年を上回っているものの、主力の婦人服や婦人雑貨が低迷している。客の購買意欲は弱い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・総額表示移行後、顧客がかなり価格を意識しており、客単価は移行前と比較して約100円ほど低下している。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・4月からの総額表示により、買上点数は減少し、客単価は低下しているが、来客数が増えているので、売上は前年並みに推移している。ただし、税金分を感じさせない価格設定により、利益は圧迫されている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客の消費が、生活上必要最低限の数量と、買い忘れを補うための購入に限定されている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・総額表示に伴う買い控えなどの影響は少ない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は多少増加しているが、客単価が低迷している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・4月は天気に左右され、何を購入するか客が迷っている感じが感じられる。連休前の旅行需要も少なく、消費行動につながっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店（次長）	お客様の様子	・当店では、消費税分を実質値下げし、売価を据え置いているが、開始数日間は他社と比べた買い得感が出て、売上効果があったものの、10日ほどで元に戻っている。売価の表示をそのまま変更した他店では、値上げのイメージを持たれていると聞いている。
		家電量販店（営業部長）	販売量の動き	・3月に苦戦した薄型テレビやDVDに再び勢いが出るなど、4月は何とか持ち直しの傾向が出ているが、回復が本物が疑わしい。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車販売実績は、目標に対し93.1%の見込みとなっている。新車効果のある看板車種は相応の販売量を確保しているが、それ以外の車種の販売が減少している。
		住関連専門店（統括）	販売量の動き	・来客数の動きはあるが、販売量が伴っていない。
		その他専門店〔燃料〕（売場主任）	お客様の様子	・元売の仕切値が再び上昇しているが、過当競争は相変わらず継続しており、市況がそれに追いつかない。販売店がいつまで耐えられるかが心配である。 ・倒産した客があり、掛け売りの客の入金状況に神経を使っている。
		一般レストラン（店長）	お客様の様子	・4月は、歓送迎会等で客は入っているが、価格を抑えたいという要望が多い。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・4月は、一般法人からの問い合わせが多く、法人宴会が回復したかにみえるが、婚礼については競争相手の進出や披露宴の多様化で苦戦を強いられている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・4月前半は、入学式、歓迎会、花見などの行事があったため、忙しかったが、後半は連休を控え、消費者が無駄遣いをしない傾向がみられる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・木曜日から土曜日はある程度の利用客がいるが、月曜から水曜日と日曜日の動きが悪い。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・この3か月間の契約件数は、ほぼ横ばいで推移している。
		ゴルフ練習場（従業員）	来客数の動き	・この何か月か周囲の景気はいいが、まだ直接実感できるほどの影響はない。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・来客数は、どの店舗も横ばいで推移している。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	それ以外	・大リーグの日本開幕シリーズなど特殊な要因を除けば、客の消費に対する姿勢は引き続き慎重である。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・中小企業には、依然として変化はない。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・計画物件が多少出てきて、上向いてきていると思っていたが、大半が計画倒れとなり、仕事量が減少している。
	やや悪くなっている	百貨店（広報担当）	お客様の様子	・景気回復が最後に表れると言われている紳士服売場の売上が底をみせてきた反面、百貨店の主要品目である婦人服が、気候の影響を大きく受けて売上を落としている。売場の売上は若干の前年割れで推移しているものの、レストラン街の売上が大きく落ち込んでいる。
		百貨店（営業企画担当）	お客様の様子	・フロアのリニューアルを実施したが効果が長続きしない。客の買い回りも少なく、欲しい商品のみを購入し、帰ってしまう傾向が強い。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・4月から総額表示が始まっているが、当社ではレジの設定がまだ外税方式で、税込み価格とレシートの表示が違うというクレームがあり、客に不信感を与えているようである。来客数は昨年より増加しているが、買上点数が伸び悩んでおり、売上は厳しい。
		家電量販店（店員）	それ以外	・4月は総額表示が価格上昇のイメージを与えたため、エアコン、冷蔵庫、パソコンなどの売行きが悪い。特に、エアコンは前年比80%と低迷している。
		高級レストラン（支配人）	単価の動き	・1月と比べ、単価が430円ほど低下している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4月の団体旅行の受注率は前年比70%で、やや悪くなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・深夜早朝割増し料金の引下げで、法人タクシーと個人タクシーの間でにらみ合いの様相となっており、顧客の争奪戦が展開されている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・1月と比べると、販売量はやや減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	一般小売店〔家具〕（経営者） 都市型ホテル（スタッフ） 住宅販売会社（経営者）	来客数の動き 来客数の動き 販売量の動き	・3、4月は家具業界にとって一番の需要時期に当たるが、4月に入り、来客数が極端に減少している。 ・宿泊稼働率は前月、前年比ともに変わらないが、宿泊人数が昨年を12%下回っており、売上が減少している。 ・建売分譲を行っているが、3か月前と比較し、売上が全く伸びない。契約件数も、3、4月とどん底である。価格を下けているため、客や販売業者が住宅を見に来ているが、購入には至らない。
企業動向関連	良くなっている やや良くなっている	- 電気機械器具製造業（経営者） 電気機械器具製造業（経営者） 輸送用機械器具製造業（経営者） 建設業（営業担当） 金融業（渉外担当） 経営コンサルタント その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	- 受注量や販売量の動き 受注量や販売量の動き 取引先の様子 受注量や販売量の動き 取引先の様子 取引先の様子	- ・今年1～4月までの4か月間の売上は過去最高水準に達している。東京の古いビルの改装や空調設備の更新が多く、それに伴う機器の納入が好調である。 ・全国からの引き合いが活発になっており、受注成約率が上昇している。 ・周辺の工具屋や油屋等の業者をみると、注文数は少ないものの、仕事は忙しく、表情も明るくなっている。 ・少しずつではあるが、大型物件や小口工事が発注され、利益幅も若干上向いている。 ・リストラも一巡し、収益力がでてきた中で、賃貸用不動産を購入しようとする企業が増加している。大企業のみならず、中小、零細企業にも同様の動きがみられる。 ・取引先の受注量が回復傾向にある。 ・新年度に入り、システム更改を計画している企業が増え、提案の依頼が多くきている。
	変わらない	繊維工業（経営者） 出版・印刷・関連産業（営業担当） 一般機械器具製造業（経営者） その他製造業〔鞆〕（経営者） 建設業（経理担当） 不動産業（従業員） 不動産業（総務担当） その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	競争相手の様子 受注量や販売量の動き 受注量や販売量の動き 取引先の様子 受注量や販売量の動き 取引先の様子 取引先の様子 受注量や販売量の動き	・取引先から、春夏物の売上が良いと聞いている。 ・受注件数、売上ともに前年同月の水準を達成できている。 ・受注量に変化がない。 ・この業界では景気が上向くまでには至っていない。ニーズにあった特殊な商品開発が必要とされている。 ・見積案件は一時期より増加しているが、契約に結び付くものは少ない状況が続いている。 ・現在の業態では黒字に転換できず、業態の変更を行う取引先が多い。 ・ビジネス地区のオフィスの空室率が改善している模様だが、当社にその実感はない。入居の引き合いもびたりと止まっている。テナント情報が全く入ってこない。 ・顧客の様子をみると景気回復のムードはあるが、受注量等の数字には表れていない。
	やや悪くなっている	食料品製造業（経営者） 不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き 競争相手の様子	・販売価格の低い商品は売れるようになっているが、高額品は全然動かない。 ・学生の来客数が減少し、特にワンルームの需要が少なくなっている。
	悪くなっている	プラスチック製品製造業（経営者） 電気機械器具製造業（経営者） 輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き 受注量や販売量の動き 取引先の様子	・4月は販売量が極端に減少している。 ・4月の売上は1月比で74%と、予想より悪くなっている。 ・得意先の今期の出荷予定数量は前年を大きく下回り、売上は非常に厳しい見込みである。構内の荷扱量も減少するので、荷扱作業員の削減を具体的に進めなければならないが、削減数も決まっているが、実施時期が不明のため、不安要素ばかりが先行している。
雇用関連	良くなっている やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当） 人材派遣会社（社員）	求人数の動き 求人数の動き	・最近では企業からの求人が多く、供給が追いついていない。昨年度と大きく様子が変わり、2004年度は供給不足の状況である。 ・派遣の交代や、社員の退職に伴う派遣依頼のほか、増員のための求人や、新規求人が多少増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・企業の新卒採用復活の動きに伴い、内々定を得た学生も、更に上のランクをねらって就職活動を継続しており、活動が長期化している。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	採用者数の動き	・中途採用数が増加し、さらに専門学校、短大、4年生大学の新卒採用数も増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・建設業を除くすべての産業で、求人が増加傾向にある。特に、雇用吸収力の高い製造、サービス、卸、小売業の求人数は、堅調に推移している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・100名未満規模の中小企業による、パートタイマーを含む求人活動に、力強さが持続している。
		学校〔短期大学〕（総務担当）	求人数の動き	・4月の新規求職申込件数が、前年同月比で約7%減少している。新規求職申込者で離職者のうち、事業主都合離職者の占める割合は16年3月は26.9%で、15年12月の29.9%を3%下回っている。
変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・この2、3か月、求人数の動きはほぼ横ばいで、増減はなく、安定した状況に入っている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数は昨年同時期と比較し減少しているが、パートや契約社員など有期雇用者の契約終了による退職が目立つ。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	求人数の動き	・今年度の求人実数は、昨年度とほぼ変わらない数で推移している。
やや悪くなっている		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集規模が小さくなり、回数も減少している。以前であれば、一回の募集で集まらない場合には連続で広告を出していたが、最近は一回出して様子を見たり、余裕のある部署を稼働させるという動きになっている。
			-	-
悪くなっている				

5. 東海（地域別調査機関：（株）U F J総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・空き店舗が減ってきており、商店街はにぎわっている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・昨年夏より観光客が増加しており、比例して来客数、購買客数ともに増えている。個別商品ではより低単価なものが求められているが、数量が増えているため客単価は上昇している。
	やや良くなっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・徐々にではあるが販売量が拡大している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・少しずつながら来客数は確実に伸びている。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・時計や宝石などの貴金属は売れていないが、眼鏡を購入する客は増加している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・売上は横ばいであるが、比較的単価の高い売行きが以前より若干良くなってきている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・お酒落に関心を持つ客が増えており、土曜日曜は運動靴よりもカジュアルシューズの売上が増加してきている。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・客の購買意欲は少しずつ向上しているようで、宝石の展示会では来客数が増え売上も予定を上回っている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・こちらが勧める商品を購入してくれる頻度が以前より増えている。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・週末はあまり良くないが、100円均一などのセールでは前年比100%を超えるようになっている。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・天候にも恵まれ、来客数が増加している。おにぎり、弁当や冷麺などの前年比の伸びも良い。		
コンビニ（エリア担当）	それ以外	・天候にも恵まれ、米飯や調理麺などを中心に売上が好調である。売上前年比は102.7%となり、徐々に100%をクリアしている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・一般客数は土曜日曜を中心に増加傾向にある。また、新商品の売行きも良くなっており、全体的にみても売上前年比は回復してきている。	
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・店舗改装の効果が出てきており、気温の上昇とともに来客数は改善している。	
		衣料品専門店（企画担当）	販売量の動き	・ファッションのカジュアル傾向もあり客単価は上がらないが、数量の伸びが一部のアイテムで見られる。	
		衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・若干ながら販売量が改善してきている。	
		その他小売〔貴金属〕（経営者）	販売量の動き	・単価は低い、卒入学や入社シーズンで商品は動いている。	
		その他小売〔総合衣料〕（店員）	販売量の動き	・商品の販売数が増加している。	
		スナック（経営者）	来客数の動き	・団体割引を実施しているため、若干ではあるが団体客を呼び込めている。	
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・春のシーズン企画の客が大変伸びている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊稼働率、宴会件数とも前年比で伸びている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・浜名湖花博の需要のため、宿泊やレストランの個人利用が増加している。	
		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・静岡県東部で経営するリゾートホテル、旅館の予約は、前年比で4月が128%、5月が138%、6月が129%と良くなっている。浜名湖花博の影響もあるが、来客数はかなり増えている。	
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・団体旅行の動きが本格化している。上期の海外団体旅行では前年同期の倍以上の収入が見込める。前年はSARSの影響があったとはいえ、非常に大きな動きである。	
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人にゆとりが出てきている。ゴールデンウィークの日程の良さも手伝って、旅行に出かける人が大幅に増えている。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・金曜日の夜の歓楽街には客が確実に戻ってきている。	
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・キャンペーンを行っていることもあり、折込チラシに対する反響や体験イベントへの集客が良くなっている。	
		観光名所（案内係）	お客様の様子	・例年より若干明るくなっている。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・アパートや賃貸マンションの受注が堅調に伸びている。	
		変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・例年に比べて天候が良く、人もやや多い。そのため販売量もやや多くなっているが、単価は依然として低い。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・相変わらず耐久消費財の需要は伸びておらず、苦戦している。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・客は、気に入ったものであれば少々の単価なら気にしなくなっている。
商店街（代表者）	販売量の動き		・季節商品があまり売れず、販売量が伸びていない。		
商店街（代表者）	単価の動き		・客単価は落ち着いており、変化がなくなっている。		
一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き		・昨年に比べて同業者の廃業数が減少している。		
一般小売店〔薬局〕（経営者）	販売量の動き		・販売量の動きにはほとんど変化がない。		
一般小売店〔薬局〕（経営者）	販売量の動き		・高額商品を平気で買っていき客も最近では増えているが、全体としては値引きが大きい商品を買っていく客が多く、単価は低い。また、安くてもいくつも買う傾向はなく、必要な量だけ買っていく。		
一般小売店〔書店〕（経営者）	販売量の動き		・内税化に伴い当店では実質的に値下げしているにもかかわらず、売上、販売数量とも前月と変わらない。		
百貨店（売場主任）	お客様の様子		・平年に比べ天候が不順のため、衣料の衣替えが難しく、春物を購入する客が特に少ない。		
百貨店（企画担当）	来客数の動き	・来客数は前年を10%程度下回っている。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・紳士服や子供服の売上は回復してきているが、主力の婦人服の売上は前年並であり、パンツやスカートが不調である。店全体では前年並の売上を何とか確保している。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・安い商品しか売れず、また安くても量が売れない。客は計画的で一定数しか購入せず、財布のひもは固い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は依然として95～96%で推移しており、回復の兆しは見られない。買上点数、単価とも低い状況が続いている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は若干増加しているが、客単価や一品単価は相変わらず低い。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・近くにミニスーパーが開店したため食品、菓子などは売上が減少しているが、人通りが増加したため本や雑貨などの売上は増加している。 ・清酒パック、缶ビール6缶パックなどのアルコール類は価格を安く設定しているため好調である。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・競合店が2店減った割には、販売量、来客数ともに変化していない。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・気温が高い影響で、菓子、飲料やアイスクリームなど前年比増の商品群も出ている。しかし総売上では前年を下回っている。
		コンビニ（売場担当）	販売量の動き	・都市部での販売量は増えているが、地方での販売量は横ばいもしくは減少である。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・客の様子から見ると、新聞などで言われるような上向きの状況ではない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・良い状態で推移している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・全体的に決して悪くはないが良い要素もない。販売台数も多くなく、もう少し動いても良いはずであるが、客の動きは鈍い。
		自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・低額商品の売行きは好調だが客は高額商品には消極的であり、単価が伸びず売上は低迷している。客数を維持するのがやっとの状態である。
		住関連専門店（店員）	販売量の動き	・売上は前年比で横ばいの状態にあり、既存店が下げ基調であるのは変わらない。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	お客様の様子	・仕入及び買付けの価格が厳しい。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前年4月の落ち込みに対する反動増で来客数は前年に比べて増えているが、基調は変わっていない。一品料理の推奨などの販促努力で客単価を上げ、売上を確保している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新年度で例年なら朝でもサラリーマンが4～5人でコーヒーを飲みに来ることもあったが、今年は目立った動きが見られない。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きは良い時もあれば非常に厳しい時もあり、全体としては依然として良くない。
		都市型ホテル（支配人）	単価の動き	・名古屋のホテルの客室稼働は比較的良好。ただし、最近ではインターネットでの予約割合が高くなっており、価格を少しでも上げると途端に入らなくなる傾向がある。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・平均して受注量が確保できているわけではないため、確実に回復していると言い難い。建設業、製造業が回復しきれていないことが影響している。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・低単価志向、来客数の減少が徐々に進行している。また、愛知万博などの需要も一部あるが、発注は東京に流れるなど必ずしも地元利益が大きいわけではない。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数は戻りつつあるが、一方では客単価が上がらない状況もある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーの動きはまだ良くないが、サラリーマン客からは多少良くなっているという話が出てきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・近場の利用客が多いため、売上はなかなか伸びていない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・入札などで利益を最小限度に押さえている状態であり、まだ我慢の時期である。
		テーマパーク（総務担当）	単価の動き	・1～3月の園内客単価は相変わらず前年より低い傾向にある。観光への消費は上昇が感じられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・来場者数、売上とも前年より増加しているが、目標金額には届いていない。
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きや個別単価には変化が見られない。
		パチンコ店（店長）	来客数の動き	・客単価など過去3か月の変化はあまり見られない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅金融公庫は金利が少し上がったが、個人住宅の契約高に変化はない。
	やや悪くなっている	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・気温の寒暖が激しく、春物、初夏物とも販売に苦慮している。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数は増加しているが、客単価はそれ以上に下がっている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・単価の低迷が続き、売上の減少につながっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・消費税総額表示に切り替わり、客の動きは鈍化している。客は様子見になって販売量は減少しており、単価もやや低下している。
		乗用車販売店（従業員）	それ以外	・グリーン税制の駆け込み需要の反動で来客数はかなり落ち込んでいる。車検や点検以外のサービス分野でも、部品の売上の落ち込みがあり厳しい。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・年度末の駆け込み需要の反動もあるが、受注、登録とも不調に終わっている。店頭でも活気が見られず、受注などに至った引き合い件数も計画を大きく下回る状態が続いている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・客からの値引き要求も非常に強く、利益を圧迫している。気に入った商品を少しでも安く購入したいという慎重な購買姿勢はより鮮明になっている。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・客の来店回数が激減している。ゴールデンウィーク前後はひどいものである。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・卒入学シーズンが終わり、平日の来客数は減少している。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・前月の好調ぶりから一転して予約の伸びは急速に弱くなっており、前年を下回っている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・大型店など競争相手が増えており、客が分散している。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・相変わらず客の回転が悪い。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・例年なら忙しい時期であるが、客が来ない。	
	悪くなっている	家電量販店（店員）	競争相手の様子	・広告を出しても反応はほとんどない。
		その他サービス [珠算塾]（経営者）	来客数の動き	・デジタル家電は好調であるがその他の商品は買い控えや客単価の低下が続いており、家電業界は厳しい状況にある。
	企業動向関連	良くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き
やや良くなっている		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて受注量、販売量ともに増加し、売上は26.1%増、経常利益は101.7%増である。公共施設の基盤整備に特需が出ているためである。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・通常と比べて5%程受注量、販売量が増加している。
		化学工業（人事担当）	受注量や販売量の動き	・販売単価はやや低下しているものの、受注量は拡大している。
		鉄鋼業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・業界全体の動向として、価格は上昇していないが、量には伸びが見られる。
		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・実需はおう盛とは言えないが価格が急騰しており、一時的かもしれないが売上は伸びている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・加工品の受注が増加傾向にあることに加えて、設備の引き合いも増加傾向である。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・以前に見積した案件をここへきて受注するケースが増加している。
		電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設機械用製品の受注は前四半期比で約10%増となっている。ただし大半が輸出用であり、国内向けはまだ大きな伸びにはなっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（エリア担当）	取引先の様子	・設備関連、特にプラント機械の荷動きが、ばらつきはあるものの確実に良くなっており、トラックへの積込台数が増えている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・名古屋地域では貨物量は増加傾向にある。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・電波媒体、印刷媒体とも、出稿量は若干ながら上向いている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・チラシは前年比116%と予想以上に伸びている。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・建設業などでもやや明るくなっている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	取引先の様子	・開発案件の受注量が増加している。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	競争相手の様子	・営業マンの様子は明るくライバル社も非常に繁忙であり、業界全体が良くなってきている。
	変わらない	印刷業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の状況は、2、3か月どころか、ここ1年ほど変化がない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内販売は年度末需要の終了に伴い1月の水準に戻っている。海外販売は前月よりわずかながら増加しているが、依然として低調である。
		電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・比較的低価格な汎用機種には需要があるが、高価格な自動機の動きが少ない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新たな案件がなかなか生まれない。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量より価格が当面の優先課題である。原材料価格の高騰に加えて、労賃の動きも一部引きずられている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・受注量の伸び率は前年比でやや減少している。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・一部企業では売上増加が見られるが、全体ではまだ回復基調には至っていない。
企業広告制作業（経営者）		受注量や販売量の動き	・回復の兆しを感じたものの、実際には売上は伸びていない。	
公認会計士		取引先の様子	・顧問企業の業況は上向きになっていない。	
経営コンサルタント		取引先の様子	・信用金庫の貸出先の業績、貸出内容などを見ても、業績回復の兆しは見えない。	
やや悪くなっている	金属製品製造業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・新規に土地を購入する動きは鈍く、値下がり傾向は続いている。	
	輸送用機械器具製造業（統括）	受注量や販売量の動き	・原材料の値上げ要請が厳しい。しかし客先に価格を転嫁できる状況にはなく、それどころか値下げ要請がなお続いている。	
	非鉄金属製品製造業〔鋳物〕（経営企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・取引先からの受注量が減少している。単価引下げ要求も依然として強い。	
悪くなっている		受注価格や販売価格の動き	・受注価格は依然として低下する傾向にある。これに対し、原材料などの値上がりが続いている。	
雇用関連	良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・静岡県内の有効求人倍率は1倍に近い状態で推移しているが、特に即戦力の製造技術者や小売店などの販売職で求人難になっている。しかし販売職には応募者が少なく各地で定員割れが見られる。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・静岡県内の有効求人倍率は1倍に近い状態で推移しているが、特に即戦力の製造技術者や小売店などの販売職で求人難になっている。しかし販売職には応募者が少なく各地で定員割れが見られる。
		職業安定所（所長）	求職者数の動き	・派遣の新規受注は相変わらず好調であり、スタッフ不足が続いている。
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	それ以外	・景気が上向きなため、良い条件の求人があれば転職を希望する在職の求職者が増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・企業では定年後の再雇用、雇用延長が多く見られるようになっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・静岡県内の有効求人倍率は1倍に近い状態で推移しているが、特に即戦力の製造技術者や小売店などの販売職で求人難になっている。しかし販売職には応募者が少なく各地で定員割れが見られる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の有効求人倍率は、3か月前と比較して有効求人数が20.1%増加し有効求職者数も9.7%増加したため、0.1ポイント上昇の1.17倍となっている。前月と比較すると、0.02ポイント低下と9か月ぶりに低下している。 ・業種別の求人は、前年同期と比較して、運輸・通信業、建設業、卸・小売業でそれぞれ27%、25.7%、5.9%減少しているが、大口のサービス業、製造業では各23.3%、0.4%増加しており、全体では6.1%の増加である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は増加している。ただし請負、派遣が中心であり、求職者が求める正社員の常用就職は依然として不確定な要素が多い。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・取引先の求人数は増えており、1月と比べると約2割伸びてきている。
	変わらない	アウトソーシング企業（エリア担当）	求職者数の動き	・引き続き自動車関連とIT関連の求人が活発である。しかしスキルが伴わないなどの理由で雇用に結び付かないケースも多い。また求職者数も減少しており、雇用のミスマッチは依然として解消されていない。
		民間職業紹介機関（経営者）	採用者数の動き	・求人ニーズは相変わらずおう盛だが、特に求人を中心とする技術系求職者数が不足しており、供給が追いついていない。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者が増加している。退職理由別では事業主都合が前月比37%増加し、自己都合も18%増加している。有効求人数の増加幅を上回る有効求職者数の増加により、有効求人倍率は1.14倍に低下している。 ・前職無業者は前月比45%と大幅に増加しており、特に24歳以下の年齢層が大幅に増加している。
悪くなっている	-	-	-	

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・気温が不安定なため、昨年この時期にカーディガンにシフトしていた客も、今年は若干厚地で単価の高いジャケットを購入するケースが多く見られる。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・新規の取引先が増えており、全体的に消費が上向いている。
	やや良くなっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・酒の取扱を始めたため、来客数が増加している。
		家電量販店（経営者）	来客数の動き	・気温の高い日が続かないため、エアコンの出足が大変悪く、売上は厳しい。しかし、全体的に来客数は増加し、買上点数も大幅に伸びている。
		自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・客の求める商品が二極化しており、良い商品は非常に高くても売れ、値段の安い商品もそれなりに売れている。しかし、両者の中間の商品の売行きが悪い。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・既存店の来客数は前年同月に比べ1割増加したため、一品単価の低下がカバーできた。
	変わらない	スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は団体や接待などの予約が多く入り、売上は例年の1割増となっている。客の職種によっては景気の盛り上がりを感じるが、建設関係の客からは依然悲鳴が聞かれる。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・4月上旬は肌着、靴下、パジャマなど生活必需品のまとめ買いが非常に多かったが、春休みを過ぎてからは天候不順などもあって、客の商材に対する見方がシビアになっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・月初は客が消費税の総額表示に戸惑ったため、売上が若干落ちたが、月末にかけて客の動きも落ち着き、平常に戻った。来客数は増加しており、少しずつ購買意欲が活発になってきたようにみえる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客の低価格志向は、強まっているというよりは根付いているという感じがする。
	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・食品の売上は昨年並みで、消費税の総額表示の影響はあまり見られなかった。しかし、衣料品は相変わらず単価が上がらず、苦戦している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（副店長）	単価の動き	・来客数や客単価が前年同月比で上回ったが、総額表示の影響が、客に買い控えの兆しが見える。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・給料日直後の土、日曜日の天候不順が売上に大きく響いた。客の慎重な姿勢が続いている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・桜の開花が早く、中旬以降の来客数が例年を大きく下回ったため、苦戦を強いられている。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・客室稼働率の伸び悩みと婚礼件数の減少はあったものの、レストランの通常営業と一般宴会で客単価が上昇したため増収となり、全体では前年を上回る見込みである。3か月前との比較では婚礼件数が伸びず、減少となる見通しである。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・大きな団体ツアーの受け入れはあったものの、その他の団体の動きは鈍く、個人・グループ客も横ばい状態である。全体の来客数でも前年同月比横ばいとなった。
		競輪場（職員）	単価の動き	・来場者数と販売単価が若干ダウンしてきた。
		設計事務所（職員）	販売量の動き	・新年度になり、引き合いや継続案件の動きが出てきた。しかし、客の予算と要望条件がなかなかマッチせず、内容の大幅な見直しなどにより、総じて受注に時間を要している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・大型住宅の受注が少なくなり、中規模住宅の受注がかなり伸びている。また、展示場やイベントの来場者はやや増加し、これらの会場での受注もそれなりに増えている。しかし、全体的に大きな伸びは見られない。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・春のキャンペーンを実施した結果、来場者数、参加者数は昨年より増えた。しかし、これが受注に結びつくか否かは判断が難しい。	
	やや悪くなっている	スーパー（営業担当）	単価の動き	・客に総額表示の割高感を与えないように、主力商品は本体価格を消費税分だけ下げて対応している。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・休日はコンビニ弁当で済ませようとする人が多く、客に節約傾向が見える。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型の高額車の売行きは極端に悪くなっている。一方、中古車は引き合いが増え、販売台数もやや増加している。これは新車購入をあきらめた層の需要と思われる。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・県内の自動車市場は前年を下回る状況が続いている。当社の販売台数も前年を下回って推移しており、今月も前年を割っている。また、値引きもやや膨らんでいる。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・最大需要期である3月の受注残で何とか商売をしている状況である。4月の新規受注の動きは弱く、新車効果も大分色あせてきている。
乗用車販売店（営業担当）		来客数の動き	・来客数が前年同月比で15%減少している。	
悪くなっている	住関連専門店（店員）	販売量の動き	・全体の受注件数は前年同月の96.2%である。急激に落ち込んだ3月に比べるとやや改善したが、依然として4月も厳しい状況である。	
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・昨秋まで扱っていたヤングファッションの2ブランドが取引先の意向で撤退したが、新ブランドの導入がうまくいかないため、客足が伸びていない。地方の百貨店に対するブランドの取引先選別が厳しくなっている。	
企業動向関連	良く なっている	一般機械器具製造業（経営者）	それ以外	・会社や見本市への来客数が昨秋に比べて倍増し、価格が値戻ししている。また、販売量も増加している。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先である大企業からの受注状況が良くなりつつある。
	やや良くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・当社の状況はあまり良いとは言えないが、取引先ではかなり忙しく、発注しても納期がなかなか守ってもらえない。
		電気機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・引き続きデジタル家電の新製品向けの電子部品が好調である。この状態は今後1年ぐらいは続く。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・決算期の3月は荷動きがなかったが、4月後半は大型連休を前にして問屋からの依頼がかなり多く、トラックの確保に四苦八苦するような状態であった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・鉄鋼や造船など中国関連の需要がおう盛で、これに関連している業界では非常に活発な商いが行われている。これに伴い、価格も多少高くなっており、量も増えつつある。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先の設備投資と運転資金が増加している。
		司法書士	取引先の様子	・不動産登記関係では住宅ローン以外の設定は少なく、相談業務の中では債務整理が極端に減っている。
	変わらない	化学工業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・競合他社との価格競争により販売価格が低下している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、受注ロットともに従来と変わっていない。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・3月の年度末工事も完了したため、建設各社ではそろそろ資金繰りが苦しくなり、倒産が増えてくると予想していたが、現時点ではあまり倒産の話は聞かない。各社とも悪いままで何とかしのいでいるという印象である。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・最近では中小企業を中心にビジネスホンが徐々に伸びているが、全般的には低調な動きである。
	やや悪くなっている	建設業（総務担当）	それ以外	・建築工事の引き合いがわずかながら増加傾向にあるが、依然として鉄骨、鉄筋の価格が上昇局面にあり、更に納期の大幅な遅れから、工事の施工に支障が出ている。
	悪くなっている	-	-	-
	雇用関連	良く なっている	-	-
やや良くなっている		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・3月に引き続き、4月も求人広告件数が好調に推移した。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・4月の求人広告の出稿状況は前年同月比1割増となっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新聞の求人広告の売上は前年同月の1.3倍に増加している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・少人数ながら製造関係も増加傾向にある。CAD、電気設計、設計技術者など高度な技術を要する人の求人はあるものの、人材不足の状況である。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・企業の早期採用者数と求人数が前年度に比べ1～2割増加している。
変わらない		-	-	-
やや悪くなっている		-	-	-
悪くなっている	-	-	-	

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	通信会社（経営者）	お客様の様子	・大手企業においてIT関連の新規投資案件が格段に増えている。コンペの話も増えてきている。
		通信会社（社員）	来客数の動き	・薄型で大型ディスプレイのテレビの販売が好調なように、地上デジタル放送の認知度が急速に上がっている。ケーブルテレビの加入のペースもここに来て加速してきている。
		美容室（店長）	来客数の動き	・開店10周年キャンペーンで常連客を中心に価格割引を実施したところ、大幅に来客数が増加した。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・天候が良かった日が続いたため、来客数も増えた。
		商店街（代表者）	単価の動き	・従来より単価の高いものが売れてきている。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・天候も良くなってきて、季節商品の売行きが伸びている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・ファッション商品以外のアイテムも活発になってきており、来客数も前年を上回る状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・宝飾、時計などを中心に高額品の動きが良くなってきている。プライダは苦戦しているが、大口の宝飾の商談は継続中のもも含めて数は増えている。しかし価格には敏感で、一部スーパーブランドなどでは円安による値上げの影響で買い控えが起きている。消費税の総額表示の影響はあまりみられない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・来客数が少し増えている。すぐにギフト販売へは結び付かないが、単品を中心に上向き傾向である。
		スーパー（経理担当）	お客様の様子	・消費税の総額表示に関しては大きな混乱もなく、来客数、客単価は上向きである。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・4月も予定の売上高を達成し、これで4か月連続の達成となった。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・1人当たりの購入額が200円台の客がかなり多いが、500円台、1,000円台の購入も目立ってきている。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	お客様の様子	・明るい話題が多くなるなかで、買い控えられていたスーツやシャツの売上が増加している。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・デジタル家電の売行きが伸びている。特に薄型テレビが非常に好調に伸びている。乾燥機付き洗濯機も好調に推移している。
		家電量販店（企画担当）	単価の動き	・冷蔵庫、洗濯機等は単価が上がっている。薄型テレビに関しても毎月少しずつ単価が上がっている。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・販売台数はほぼ前年並みであったが、客の様子が少し明るくなってきた。
		その他専門店【宝石】（経営者）	来客数の動き	・3か月前に比べて来客数が2割ほど増加し、客の購買意欲が出てきた。下取り、買取りを勧めた時の客の反応も良くなってきた。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・新経営陣による営業戦略が浸透するのに伴い、従来とは異なった手ごたえに社員が自信を持ち始め、数字がついてくるようになった。
		観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・花見等の観光客も増えるなかで、高額な土産を買う客も見受けられたほか、レンタルボート等を惜しみなく利用する客も増えてきた。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・4月に入り、客の動きが全体的に一段と活発になっている。この傾向は3月の後半からみられたが、春休みを過ぎ桜も終わった今も、大阪のホテル業界は好調を維持している。宿泊、宴会、食堂いずれも、今年の最初はもちろん、昨年と比較しても好調である。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊は例年の大型の団体客がなかったにもかかわらず、前年並みに伸びた。特に今年は天候に恵まれ桜の花見が順調であったため、観光客が大幅に増加したほか、ビジネス客も堅調に伸びてきている。
		旅行代理店（広報担当）	来客数の動き	・来客数もさることながら、従来に比べて遠距離の旅行や、航空機のビジネスクラス利用等、高額商品を選ぶ客が明らかに増えている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・年が明けてからの乗客数の微増傾向は依然として堅調であり、乗客単価も多少上がる傾向にある。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・先月からは売上や買い換え需要が落ちているものの、以前に比べて新規購入の増加で売上が伸びている。
		美容室（店員）	来客数の動き	・接客のトレーニングの効果などにより、ゴールデンウィーク前の売上が過去最高を記録した。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・客との会話では売上は伸びてきているという話もあり、実際に仕事も増えてきた。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・土地相場は全体的に下落傾向であったが、一部エリアでは完全に下げ止まり感が出てきた。徐々にではあるが、買手市場から売手市場に変化してきている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・高額マンションの販売案内を開始したところ、問い合わせが非常に多く寄せられている。他の物件でも同様の傾向がみられると聞いており、本格的な景気回復も近いと実感している。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・契約量が横ばいではあるが、1棟当たりの単価が上昇傾向で、付加価値の高い省エネ、防犯商品が好調に伸びてきている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・測量会社への土地の測量依頼件数が増加していることや、投資不動産への投資意欲のある個人が増加していること、中古マンション価格も下げ止まり傾向で活発に取引されていることなどから、不動産の動きが活発になっていると感じる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		その他住宅〔展示場〕（従業員）	お客様の様子	・来場者の相談件数が増えてきた。各住宅会社からは販売単価が一段と厳しくなっているという意見が多いが、家が欲しいというマインドは確実に回復してきた様子である。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・新築マンションは3月末時点の販売在庫数が2月とほぼ同程度の低い水準にあり、さらに竣工済み在庫が前年には全体の35%を占めていたのに比べて、今年は29%程度となっていることから、販売状況は順調に推移しているとみられる。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・昨年近隣にスーパーが開店したので、その流れで来客数の増加が期待されたが、現状は午後からの来客数が少ない。	
	一般小売店〔食料品〕（経営者）	競争相手の様子	・マーケットの変化するスピードが速く、商品開発なども大手企業の間隙をつくのが非常に厳しくなってきた。	
	一般小売店〔文具〕（経営者）	販売量の動き	・消費税の総額表示が導入されて心配したが、今のところ落ち込みもなく今までと同じ状況である。	
	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	販売量の動き	・新年度需要である程度盛り上がったものの、例年その効果は減少気味である。	
	一般小売店〔野菜〕（店長）	単価の動き	・客単価も上がらず、旬の食品でも売れないので非常に厳しい状態である。	
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・売場への来店が減少している。実際に来客数も減少しており、市内の好調であった百貨店でさえ同様の状況と聞いている。特に担当のヤングキャリアゾーンではその動きが顕著である。	
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・消費税の総額表示により、価格の割高感を消費者が感じているという不安は今のところないが、相変わらず財布のひもは固い。	
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・プロパー商品の売上が厳しいため、バーゲン品等の強化を行っているが、客は商品の単価のみではなく、商品の付加価値を求める傾向にあり、単価ダウンによる売上対策の効果が薄れてきている。	
	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・平日の物の動きが悪くても、バーゲン、クリアランスは客が多く来店し、売上も前年並みが確保されていたが、先月からその傾向が弱くなってきた。しかし、依然として宝石、高級時計の動きは良い。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・客1人当たりの買上点数は、依然回復の兆しがなく、販売量は相変わらず厳しい状況が続いている。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・販売量と同様に、客単価も前年の水準を下回る状態が続いている。	
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数、客単価ともこの数か月はあまり変化がなく、売上は下げ止まった感がある。	
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・3月末より暖かくなり春物が動き出したが、4月に入って天候が悪くなり来客数、販売量が落ち込んだ。	
	家電量販店（営業担当）	単価の動き	・客単価は薄型テレビ、エアコン、パソコンが好調で前年比で120%であるが、来客数が減っており前年比で80%に終わったため、売上は3か月前と変わらない。	
	自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・販売量、単価とも若干ではあるが上向いており、顧客の消費動向も、目的買い一本から少し広がりが出てきている。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・売上は増えているが、競合店との競争激化で逆に利益が落ち込んでいる。	
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・前年同月比で来客数も売上もかなり増えている。1人当たりの客単価は下がっているものの、それ以上に来客数が多かったため、売上も伸びる結果となった。	
	通信会社（経営者）	お客様の様子	・春の新学期、新社会人向けキャンペーンの最終月になるが、これまでのような盛り上がりはみられない。	
	遊園地（経営者）	来客数の動き	・天候が良く、桜も今年は例年になく長く咲いたため、来客数は増えた。	
その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	お客様の様子	・一時期の悪い時期は脱したが、イベント主催者の動きは慎重でシビアである。		
その他レジャー施設（企画担当）	来客数の動き	・4月に入って好天にもかかわらず客足が鈍い。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	来客数の動き	・個人店の閉店が目立ってきた厳しい状況のなかで、大型店が出店したため、売上を維持するのが難しい。
		その他サービス 〔クリーニング〕（経営者）	販売量の動き	・前月の反動と中旬以降の雨、気温低下等の天候不順の影響により、売上が伸び悩んだ。
		その他サービス 〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	競争相手の様子	・不況業種の店舗跡地へのライバル企業との出店競争があるが、まだまだ防衛的な出店も多く、全体的な景気向上を感じるには至っていない。
	やや悪くなっている	一般小売店 〔花〕（経営者）	単価の動き	・消費税の総額表示導入の影響で、やはり懸念したとおり、花束などを税込3,000円だと指定する客が増えた。1人当たりの実質的な売上が減少している。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	販売量の動き	・春休みが終わって一息つく時期であるが、昨年のSARSの影響があったところよりも動きが鈍い。また米国のBSE問題の影響で相場が高騰し、利益を圧迫している。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・ジュエリーの大手ブランドや宝飾品といった比較的高額な商品の動きが止まっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・ごく一部の客が高額なブランド宝飾品を購入しているが、以前より来客数が減り、また美術品の引き合いも減ってきた。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・春の新品や春物商材の不振、母の日のプレゼント商材の購入単価の低下等で、普通品の売上が前年より5%減と不振である。物産催事や有名ブランドセール等の催事は集客も多く好調を維持しているが、週単位でのばらつきがあるため、店全体の売上では苦戦している。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・4月末に競合店が近隣にオープンし、来客数が減少して厳しい状況である。
		スーパー（経理担当）	それ以外	・消費税の総額表示の導入により、客は割高感を感じており、買い控えが起きている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合他店、道路整備による交通導線の変化にも原因があるが、単価についてもまだまだ復調の兆しを感じられない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・地元の客の購買意欲が乏しい。観光で来た客の方が購買意欲がおう盛である。
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	お客様の様子	・仕入価格が急騰してきているが、販売価格はなかなか上がらない状況である。
		都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・前年がSARSやイラク戦争で大変な落ち込みであったため、前年実績はクリアしているが、思った予算には届いていない。まだまだ受注等にかなり努力しなければいけない状況である。
競輪場（職員）	単価の動き	・単純には比較できないが、今月の本場開催における来場者の客単価は19,575円と、3か月前の27,818円、2か月前の21,066円から悪化している。ただ、場外開催における客単価をみると、3か月前は20,597円、2か月前は19,307円であったが、今月は20,000円前後になる見込みであることから、大幅な悪化とはいえない。		
悪くなっている	一般小売店〔時計〕（経営者）	お客様の様子	・近隣の店舗の閉店が続き、それに伴うバーゲンで出費が続いたのか、今は来店があっても購入までには至らない。	
	スーパー（経営者）	販売量の動き	・消費税の総額表示がスタートし、既存の集客価格である末尾8円、9円を維持したほか、円未満の端数を切り捨てるなどの対策を行ったが、実質的に同じ価格であるにもかかわらず、客の買上点数が顕著に減少している。	
企業動向関連	良くなっている	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・建機、自動車、造船等が好調で、世界的な鉄鋼不足による価格上昇及び仮需的な強い需要に引っ張られている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・営業の種まきが進んできたのか見積り依頼が多く、そのうちのいくつかは受注できそうである。また、いろいろなところから問い合わせ等もあり、忙しくなっている。
		その他非製造業 〔民間放送〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・オリンピックやデジタル家電の売行き好調などを背景に、テレビスポット市場は近年まれにみる活況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや良くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・鉄鋼業界は依然としてフル操業が続いている。それに伴い、生産設備の更新案件も活発に出てきている。
		電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・液晶テレビやDVDレコーダーの売行きが堅調な伸びを示している。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・中国以外の海外案件が増えてきた。
		輸送業（営業所長）	受注価格や販売価格の動き	・関西国際空港での輸入貨物の配達に、昨年は少し落ち着いていたが、今年は昨年を大幅に上回っている。また協力会社の話では、今年になって薄型テレビのフレーム等を毎日貸切で配達していると聞いている。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・電気部品の製造業等や小売業の販売額が増加してきている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物販、飲食テナントの問い合わせが徐々に増えてきた。また、新規開店の相談も、昨年より倍以上に増えている。
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・不動産売却の手法として入札が増えているが、市内中心部の物件に対して入札希望が多く、価格も確実に上昇傾向にある。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・若年層の購読離れが進んでいるものの、このところ好調な折込広告による収入増で補っている。
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・売上高が今年に入り、月ごとに前年比で10～20%上昇している。	
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・川上での取引は低迷しているが、消費者に近いところでの取引は動き始めている。
		金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格は急速に上がってきているが、製品価格への転嫁がうまくいかない状況である。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・工事量の減少、競争の激化などから、同業者の倒産、廃業が相次いでいる。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度になっても、住宅関連等の大口顧客の部材の荷量が少ないが、契約してから着工まで部材の搬入で1か月以上かかることから、徐々に増えていくことが予想される。一方で他の一般貸切では、運賃は安いものの、外販部分で引き合いが増えてきている。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・コストダウンの要請等もあり、景気が回復している様子はみられない。
不動産業（営業担当）		取引先の様子	・当社の営業圏内では、神戸の中心地でワンルームマンション需要が増えてきているだけであり、その他はまだまだ横ばいである。	
コピーサービス業（従業員）		受注量や販売量の動き	・消費税の総額表示の導入によって印刷物の受注が落ち着き、また年度末の駆け込み需要が一段落したことにより、来客数及び問い合わせが非常に少ない月となった。	
その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）		受注価格や販売価格の動き	・消費税の総額表示の導入によって、小売店での単価が最大で5%下がっている感がある。その影響でメーカー側も応分の負担を強いられることから、利幅が減る方向にある。	
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている			
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・仕事を紹介できるスタッフの登録が少ないので、スキルのあるスタッフは企業も手放さない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は堅調に増加しており、受注件数も回復基調に転じたが、価格競争が厳しく、いまだ収益基盤は弱い弱である。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新年度を迎え、求人数に落ち込みが発生することが予想されたが、新規採用、紹介予定派遣ともに緩やかに増加している。	
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者のうち、事業主都合の離職者が減少し、在職者がより自分に合った仕事を探すケースが増加している。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数、求人倍率ともに増加上昇傾向が続いているが、パート、臨時の求人がかなりのウェイトを占めており、依然としてミスマッチが存在する。	
職業安定所（職員）	求人数の動き	・今月の求人倍率は0.8倍と、11年7か月ぶりの水準になった。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		民間職業紹介機関（支社長）	採用者数の動き	・今年は経済団体による取り決めで新卒の採用が4月スタートになった。その影響で中途採用の勢が悪くなると予想されていたが、それほど影響はなかった。
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・来校企業の増加傾向と各企業の業績回復等から、少し明るい兆しがみられ、採用意欲が増加してきている。
	変わらない	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・今年に入って求人数は横ばいを続けている。アルバイト、パートの季節的要因での入れ替え需要はあったが、正社員の求人は即戦力採用ニーズが高い。一方で、人材紹介や派遣の依頼は好調である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・求人広告に関しては横ばい状態であるが、中高年者を対象とした求人広告に関しては多少動きが出てきた。また、メーカーの求人広告にも、少し動きが出てきたように感じる。
やや悪くなっている				
悪くなっている		-	-	-

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	一般レストラン（店長）	単価の動き	・メニュー改正により、客単価を前年比80円上げたが、客の「高い」という声もなく、自然と受け入れられている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・2月下旬から、お客様のフットワークが軽くなったと見受けられる。
		商店街（代表者）	単価の動き	・高額商品、DVD、プラズマテレビ、液晶テレビなどに動きが見られてきた。
		一般小売店〔100円商品〕（店員）	販売量の動き	・販売量が15%程度上向き、それと併せて売上も増加しており、客の購買意欲、景気は上向きであると推測できる。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・バーゲン品の動きは悪いが、昨年よりプロパー商品の動きは良い。 ・依然として1点買いの傾向は続いている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・全社的な売上状況は過去3か月の中で最高の売上である。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・総額表示導入後、客数減が予測されたが、引き続き客数はわずかながら伸びてきており、やや景気も回復傾向にある。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・単価の動きが前年の97%前後で推移していたが、今月は102%と好調に推移している。客数も96%前後で推移していたが、100%と前年をクリアしている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・客の買上動向に勢いが見受けられる。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	お客様の様子	・総額表示になっても、特に客の販売意欲は変わっていない。 ・価格が安くなれば、まとめ買いをする客が目立つ。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・来客数が、前半は厳しかったが、後半やや伸びた。 ・客層が、高額商品購入者と低額商品購入者という、二極化現象が出始めてきた。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・客数は横ばいであるが、販売数は伸びている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・客から、海外旅行の話が頻繁に聞くようになり、生活が苦しいという話を聞かなくなったことから、自分の業界内では現実と好況感を肌では感じられないが、客の動向を通して徐々に上向いているように見受けられる。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・販売量は昨年と比較して約10%上回っている。
		その他専門店〔書籍〕（従業員）	単価の動き	・客数には変化ないが、売上が増加している。つまり客単価が増加している。
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・法人利用は変わらないが、個人の利用については単価が上昇してきた。	
	その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	来客数の動き	・客数の減少に歯止めがかかってきた。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
変わらない		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・昨々年度、昨年度の平均値をやや上回っており、来客数も増加しているため、若干良くなっている。		
		商店街（代表者）	単価の動き	・販売件数は以前と変わらないが、単価が若干だが安いものが出ている状況である。		
		商店街（代表者）	来客数の動き	・客は、手持ちのお金は増加しているように見受けられるが、購買意欲は依然低く、不必要な物への購買意欲の低さは徹底しており、小売業では、景気回復を感じられない。		
		百貨店（売場担当）	単価の動き	・婦人服部門は、3月の大不振から比べると、かなり回復してきており、比較的単価の高いプレタゾーンが好調であるが、紳士服や雑貨関連が不振であるため、相対的な景況感は変わらない。		
		百貨店（売場担当）	来客数の動き	・3月の他店のリニューアルや出店によって流れていたお客様が戻ってきた。 ・サンダルの動きが前年に比べて動きが悪い。		
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・総体的に販売数量が落ちている、大きな原因は総額表示に伴う割高感が影響しているように思われる。今までの売上不振原因であった単価の下落やBSE・鳥インフルエンザとは要因が大きく違ってきている。		
		スーパー（販売担当）	それ以外	・総額表示になってから、お客様が必要以上のものは買わなくなった。		
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・来店の動きが出てきたが販売につながらない。		
		家電量販店（副店長）	販売量の動き	・パソコンを中心としたOA商品の動きがここ数か月鈍化傾向にある。販売構成比が高いため影響が大きい。		
		乗用車販売店（総務担当）	単価の動き	・今月は、他社との競争がますます激化し、価格、来客数とも悪いが、特に、単価が悪い。		
		住関連専門店（広告企画担当）	販売量の動き	・購入時期が昨年と比べて、また少し後ろにずれてきている。景気がよくなっている時は、購入時期が早く（手前に）なるようだが、その兆しは全くない。		
		旅行代理店（経営者）	単価の動き	・受注量はあまり変化がなく、売上に貢献までには至らないが、客の動きが出てきた。		
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・加入契約数がここ数か月の実績から低下したままであり、かつ解約も増加しており、純増加数が低迷したまま推移しており、増加の兆しが見えない。		
		やや悪くなっている		ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・来客数は昨年度とほとんど変わらない、客単価は若干低下傾向である。
				その他レジャー施設 [温泉センター]（営業企画担当）	来客数の動き	・日帰り温泉部門は、先月に引き続き動員数で上回る日が増えてきているが、逆に温泉ホテル部門の宿泊数は若干前年を下回る厳しい状況となっている。利用グループの数は前年並みもグループ自体の人数が減っており、今月は団体がうまく取り込めなかった事が要因として考えている。
設計事務所（職員）	販売量の動き			・依然として個人住宅向けマンション・1戸建住宅の新築が多いとともに早く販売されている。		
住宅販売会社（経理担当）	お客様の様子			・予約されても将来の支払不安等の理由で契約前にキャンセルされるケースが増えた。		
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き			・受注状況は、3か月トータルで判断すると例年並みの状況であり、あまり変化が見られない状況であった。		
百貨店（売場担当）	販売量の動き			・紳士衣料は前年比を越えているが、婦人服、特にヤング部門が不調で、前年比80%で推移しており、季節物のサンダルも前年比80%と苦戦しており、特にヤングキャリア向け商材が全般に雑貨も含め不調で、店舗全体としても、前年比98%で推移している。		
スーパー（店長）	販売量の動き			・客数は前年とほぼ同数であるが、総額表示を税込み価格のみの表示したところ、価格魅力減と購買意欲減少に働いたのが、買上点数の減少による客単価の減少が、平月と比べ、5から6ポイントも割り込み、売上の減少状態が続いている。		
スーパー（店長）	販売量の動き			・客単価も、少しずつ減少してきており、特売商品に客が集中し、なかなか利益商材が売れないのが現状である。		
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き			・3月の年度末は、客数が少し回復傾向にあったが、4月に入り、3月より客数の動きが悪くなっている。		
家電量販店（店長）	お客様の様子			・客の財布のひもはまだ固く、デジタルなどの問い合わせはあるものの、まだ早い、との判断で、低価格の商品購入となっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		家電量販店(予算担当)	販売量の動き	・パソコンの回復が見られるものの、総額表示の影響なのが割高感による買い控えが見られる。	
		乗用車販売店(販売担当)	販売量の動き	・車検を中心としたサービス部門は、売上が昨年より増加しているが、新車販売台数は、苦戦した昨年よりさらに10%減少し、一段と厳しい。	
		スナック(経営者)	競争相手の様子	・3、4月は、歓送迎会が多く街がにぎわったが、近年は、顧客当たりの来店件数自体の減少、1件当たりの客数の減少から、総体的な来店客数が減少しており苦戦している。	
		通信会社(社員)	販売量の動き	・販売量、来客数とも減少している。	
	悪くなっている	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前から売上が減少し続けている。 ・地方では依然として景気回復の動きは全くない。	
企業 動向 関連	良くなっている やや良くなっている	繊維工業(統括担当)	取引先の様子	・業界内に一部ではあるが、ここ数年自粛してきた海外への工場進出やイベント企画などの動きが出てきた。	
		一般機械器具製造業(経営企画担当)	受注量や販売量の動き	・国内での仕入商品は苦戦しているが、春の新品を中心に自社製品の売上が好調である。	
		輸送業(統括)	それ以外	・各企業とも、コンプライアンスを重視した内容になっているため、危険度の高いものはアウトソーシングしようとする傾向が強まり、新規問い合わせが増加している。	
		広告代理店(営業担当)	受注量や販売量の動き	・各企業の求人広告が増えている。特に派遣業が活発である。	
		会計事務所(職員)	取引先の様子	・業種的に見れば、建設業の不振が目立つものの、製造業は好調である。また、販売関係でも前期を上回る売上高を計上しているところもある。	
		変わらない	鉄鋼業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・国内向けは自動車や造船など製造業向けを中心に、輸出向けは中国向けを中心に堅調に推移しており、高操業継続しているため景況感に変化はない。
			金属製品製造業(総務担当)	受注価格や販売価格の動き	・受注価格がここ2、3年減少傾向であったが、受注単価の見直し(値戻し)が徐々に受け入れられ、良い方向に進んでいる。これが今後どう影響するかは不透明である。
			輸送用機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・船舶やエンジンの受注は好調であるが、鋼材の値上がりや円高などの不安要因も見られる。
			その他製造業[スポーツ用品](総務担当)	受注量や販売量の動き	・当該地域に大型のショッピングセンターできるなど市場関係にも多少変化はでてきているが、根本的な消費動向はあまり変わっていないように感じる。売れ筋価格は低価格帯に集中しており、身の回り品や嗜好品にまではまだ消費がいないのが現状である。
			建設業(営業担当)	取引先の様子	・デベロッパーより購入土地の情報依頼、設計事務書より見積依頼が多くなってきた。
			輸送業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・引越等の動きが期待よりも悪かった。
			金融業(営業担当)	取引先の様子	・仕事が相変わらずない。 ・建設会社の社長も設計事務所にも案件などが非常に少なく、先行き受注が見込まれないと言っていた。
			不動産業(経営者)	競争相手の様子	・取引先関係が、いまだに景気回復の兆しをみせていない企業が多く、転職を手控える傾向が強く、賃貸業は、景気回復に結び付いていない。
やや悪くなっている		コピーサービス業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると受注量はほとんど変わらない。	
		食料品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・加工食品業は、例年、4月から7月にかけて売上などは下がる傾向にあるが、今月は、例年以上に下がり気味である。	
		建設業(経営企画担当)	受注量や販売量の動き	・当社の対象となる物件が堅調しているため、今期中、最低の受注量となっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月前と比べ、水揚げ数量で576トンの減少、水揚げ金額でも317万円の増加となっており、水揚げ数量の減少理由は、沖合底引き船、巻き網船、定置網漁が減少したためである。また水揚げ金額の増加は中型、大中型巻き網船の水揚げが増加したためである。 ・3月単月前年比においても、水揚げ数量で191トン、106%の増加、水揚げ金額で、870万円減少、86.4%減少であり、水揚げ水量増加の理由は沖合底引き船、大中型巻き網船が増加したため、水揚げ金額が減少した理由は中型巻き網船、沖合イカ釣り漁が不漁だったためである。
雇用関連	良くなっている	求人情報誌製作会社（支社長）	求人数の動き	・引き続き、堅調に求人数は増加している。
		求人情報誌製作会社（支店長）	求人数の動き	・製造業、流通・卸業、住宅・不動産業、サービス業など多くの業界で、求人数が増加している。雇用形態についても、引き続き正社員の募集比率が上がっているように感じる。
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・メーカー、特に輸出関係を中心にかなり良くなっているが、個人消費にかかわるサービス産業がまだ上向きではない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新聞の求人広告の件数、金額とも昨年を上回る動きが出てきた。
		新聞社〔求人広告〕（広告営業担当）	求人数の動き	・求人数が前年比で150%増加している。引き続き増加すると見込まれる。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・業種により求人にはばらつきがあるが、サービス、卸小売を中心に伸びている。その中でも事務系の求人が増加している。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・工場請負が解禁となり人材ビジネスからの依頼も増え、また同業界での雇用促進が大いに期待される。
学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・新卒の求職は伸びており、短期的には好調が維持できる。		
変わらない	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・表面的には大型ショッピングセンター等の影響もあり、雇用が一気に上向いた雰囲気もあったが実態はまだまだ調整及び様子見の方が多く、また、求職者のマインドも求人側と齟齬が目立っており、数字ほど回復は見えない。	
		周辺企業の様子	・採用もあるが、早期退職の動きが見受けられる。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・すべての業種で目立った動きが見られず、横ばいで推移している。 ・欠員補充での求人が大半を占めており、増員での求人はわずかである。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は増えているが、臨時や派遣、請負の求人の増加が目立つ。	
	民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・売上70億円以上・売上高経常利益率5%以上の優良企業において、自社の中途採用の基準に達していなければ何か月でも欠員状態のままである。正社員の絶対数が増えない。	
	学校〔短期大学〕（就職担当）	求人数の動き	・例年、3月下旬頃から届き始める各企業からの新年度採用に係る求人票が、今年度は思いのほか届かず、各企業からは新年度の採用活動に関しては、依然として慎重姿勢をとっている姿が伺える。地元各企業の採用担当者からは「都市圏では景気の回復傾向がみられるが、それが地方にまでは及んでいない」という声が多く聞かれ、卒業年度を迎えた学生にとっては、引き続き今年度も厳しい就職環境になることが予想される。	
やや悪くなっている	-	-	-	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	-	-	-

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・客の動きが少し活発化してきており、来客数はほぼ前年並みになってきた。客単価もまだ低いものの、何とか前年キープの流れになりつつあり、3か月ぐらい前に比べると、やや回復基調にある。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・食品に関しては、鳥インフルエンザの影響等による客の買い控え感があったが、現在は回復傾向にある。来客数はかなり戻っており、客単価も上昇してきている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・天候に恵まれたこともあるが、前回の予想よりは良くなってきており、久しぶりに前年実績を少し超える状況になってきた。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・まだまだ数は少ないが、単価の高いメニューの注文が増えてきた。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・連休を利用した旅行が、国内外とも、昨年を上回った。特に、昨年はSARSの影響でほとんどなかった海外旅行がハワイ、グアム、サイパンなどを中心に大幅に増加した。5月から7月にかけての社内旅行、グループ旅行の契約なども増えている。
		観光名所（経営者）	来客数の動き	・来客数、売上とも、前年比で約20%伸びている。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・前年実績を下回っていた来客数が、同等もしくはそれ以上の数字になっている。	
	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・商談において金額、建物規模ともに大きくなってきている。	
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・春休み中は結構来客数があり、売上が上向く気配も見えたが、春休みが過ぎてからは来客数、売上とも急激に減少しており、底を脱却したとは言えない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・大型ホームセンターの進出により、商品単価が低下しており、売上に影響が出ている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・客の買い控えの傾向は変わっていない。特に食品では、4月からの消費税総額表示の影響による買い控えが顕著にみられた。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・装飾品及び絵画関連が好調に推移したことから、売上高は前年度を上回った。しかし、前月同様に、ファッション関連商品が苦戦し、ブランド商品群も前年を若干割り込んだ。また、来客数は前年を下回っている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・特売品に左右されることなく、必要な物だけを買うという傾向が強くなっている。
		スーパー（営業担当）	お客様の様子	・新入学関係の商品は例年並みであったが、衣料品、新生活の家財道具、日用品などについては、あまり新しい物を購入している様子がない。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・既存店来客数の前年比を3か月前と比較すると、107.7%から103.6%へと4.1ポイント悪化している。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・従来は曜日によって来客数が読めたが、最近はムラがあり、平均するとあまり良くない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・客単価は変わらないが、観光地全体として来客数が増えてこない状況である。
		都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・販売量は変わらないが、客単価は落ちてきている。
	やや悪くなっている	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・居酒屋、料理店、スナックなどの業務用の売上から判断すると、景気はちょっと悪くなっている。
一般小売店〔書籍〕（営業担当）		お客様の様子	・衝動買いをする客はあまりいない。ほとんどの人は何冊か手に取って、その中から1、2冊だけを選んで買っていく。	
スーパー（店長）		単価の動き	・来客数は昨年と変わっていないが、売上、客単価は減少してきている。	
スーパー（企画担当）		お客様の様子	・4月からの消費税総額表示で、客は価格が高くなったという認識を持ち、買上点数が少なくなっている。	
衣料品専門店（経営者）		来客数の動き	・ファッションをリードしていく新たな商品が見当たらないため、例年と比較し客の反応は良くない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		家電量販店(店長)	単価の動き	・来客数は横ばいであるが、消費税総額表示に伴う競合店との価格競争の影響から、客単価が下がっている。	
		タクシー運転手	単価の動き	・異動等の歓送迎会の時期であったにもかかわらず、3か月前と比べると、売上高は11～12%下落している。	
	悪くなっている	百貨店(売場主任)	販売量の動き	・先月に引き続き、今月も紳士服の動きが悪い。通常、衣替えのシーズンに入り、春夏物の購買意欲が高まるが、今までに増して厳しい状況が続いている。	
		スーパー(店長)	販売量の動き	・暖かくなるのが早く、夏物の売行きは良いが、消費税総額表示で、特に月の前半は売上が低迷した。そのため全体としては、夏物の売上の上昇分を消費税の悪影響分が相殺する形となったため、良くなかった。	
企業動向関連	良く なっている やや良くなっている	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・新商品の投入などにより売上は、3か月前に比べて、多少良くなっている。	
		繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・景気が目に見えて良くなっているという実感はないが、新規開拓によって、受注が少しずつ増加している。	
	一般機械器具製造業(経理担当)	取引先の様子	・製造業の回復とともに、循環型社会の取組によるユーザーの動きが活性化しており、新たな仕事も出てきた。		
	一般機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・低調だった阪神地区のクレーン稼働状況が良くなってきた。過去数年にわたるクレーンの保有台数の減少によって、需給のバランスが取れ始めてきたためであると考えられる。		
	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・例年、年度末を過ぎると引き合いが止まるが、今期はまずまずの受注が確保できており、引き合いもかなり多い。		
	広告代理店(経営者)	取引先の様子	・全体としては明るい気配が感じられるが、零細・中小の小売店、住宅・不動産は厳しい状況に変わりはない。ただし、大型家電販売店では、高額な薄型テレビ、DVDレコーダーの売上が順調で、予測を大幅に上回っている。		
	公認会計士	取引先の様子	・各クライアントの決算内容を見ると、売上はまだまだ前年を下回っているが、減少幅が以前よりは半分ぐらいに少なくなっており、やや持ち直している。		
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・特に家庭紙関係、トイレットペーパーの動きが悪い。	
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量はほとんど変わっていないが、大手企業の中国の進出への影響が出始めている。	
		輸送業(役員)	受注量や販売量の動き	・貨物量の前年伸び率は3か月前と比べ、ほぼ同じである。	
		金融業(融資担当)	取引先の様子	・県外に受注先がある企業についてはやや回復の兆しがみられるが、県内を中心に事業をしている取引先については、回復の兆しが全くみられない。	
	やや悪くなっている	建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・流通業の大型出店の案件が一段落して、受注が少なくなっている。	
	雇用関連	良く なっている やや良くなっている	-	-	-
			人材派遣会社(支店長)	求人数の動き	・前年、前々年に比べて、受注が10～20%上昇しており、雇用状況は好転している。
求人情報誌製作会社(従業員)		周辺企業の様子	・商業、サービス業の求人数に伸びが感じられる。		
職業安定所(職員)		求人数の動き	・新規求人数は、7か月連続して前年を上回っており、特に、医療・福祉関連の求人が増加している。		
変わらない		職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・求人は増加傾向にあるものの、相変わらず、派遣、請負の求人の増加がほとんどである。	
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・パートを含む新規求人は、前年同月比で若干増えたが、臨時や期限付き求人の増加によるものである。一方、新規求職者も2か月連続で前年比増となり、有効求人倍率は前月比減となった。		
やや悪くなっている					

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	-	-	-

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街では年配層向けの商品を増やしている。また客も増えており、単価的にも若干良くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・高いものは売れないが、適当な安い物はある。天気の良い日は客の動きが多くなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新しい客も含め客足が徐々に増えつつある。
		商店街（代表者）	単価の動き	・三種の神器と言われる一部の家電製品等単価の高いものに人気が出ている。景気の変動が見られるのは一部の業種に限られるが、それでも景気の上昇が多少感じられる。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・入店客数は前年実績を上回っている。また、購買数、購買客数についても前年比104～5%である。購買率も上昇しており、基礎的な部分を見る数字については若干良くなっている。部門別では身の回り品と食料品、雑貨の動きが良い。衣料品は前年を若干下回っている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来店客数が前年比101.2%と上がっている。食料品、住関連は昨年を上回っているが、衣料品が厳しく、夏物衣料に期待するしかない。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・数年前からの新店及び店舗改装に伴い店舗の運営レベルも向上し、お客様からの支持も拡大した結果、リピート率も向上した。この効果もあって、4月からの総額表示に対するお客様の購買マインドの低下も防ぐことができている。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・客数が増え、客の表情も明るくなった。買物する姿も以前と比べ活気があり、明るい方向に進んでいる。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・前月の同期比較で量販店の売上は0.4%増、コンビニは同2.9%増、全体では同0.9%増となり、徐々に上向き傾向にある。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・客の様子としては、春になったこと、好天であることに加え、プロパーの時期ではあるが何かを買いたいという雰囲気由来店する。安いものはもちろん、高いものも買う人が少し増えたような気がしている。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・薄型テレビ、大型冷蔵庫の動きが良くなってきた。
		その他専門店【医薬品】（従業員）	来客数の動き	・ドラッグストア間の競争は相変わらず厳しいが、客数は増加傾向にある。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	販売量の動き	・ガソリンの仕入価格は3、4月と値上がりしており、小売価格に反映させているが、極端にセルフサービス店に流れることもなく、フルサービスの販売は変わらない。
		その他小売【雑貨卸】（総務担当）	それ以外	・売上は伸びていないが、利益は若干取れるようになった。良い方向に向かいつつある。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は歓送迎会以外にも客の予約が入り、やや良くなった。例年に比べると今年は団体の歓送迎会もいくつかあった。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・九州新幹線の開業効果で人の流れが増えている。しかし、県外の客を対象にする事業所は良くなっているが、通常の市内の客だけを対象とする商売は大した動きがない。
一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・宴会需要が予想よりも若干増えている。いい方向に向かっている。		
その他飲食【居酒屋】（店長）	お客様の様子	・九州新幹線の一部開通で県外客の流れが変わってきた。		
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・外的要因もほとんどなく、旅行全体としては回復しており、ゴールデンウィークの予約も順調である。		
タクシー運転手	来客数の動き	・客の乗り込み回数が良くなっている。特に夜の繁華街では遠距離の客が増えた。客全体の動きに活気がある。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設の来客数は前年比約30%増である。ゴルフ場も前年比10%以上の増となっている。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・若年者がだんだん増えてきた。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・九州新幹線が開通し、来客数が1割程度伸びた。主に福岡、北九州、山口からの来場者が多くなり、上向きである。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・発売金が下げ止まっている。
		美容室（店長）	お客様の様子	・最近入学式で着物を着る人が減っていたが、今年は若干多くなった。お宮参りも同様である。気分的に余裕が出てきたのではないかと。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・大型分譲地が相次いで販売されており、動きがみられる。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・近隣に百貨店ができて客の流れが変化し、商店街への流入が減少した。政府、マスコミでは景気が少し上向きということであるが、我々にはまだほど遠い。
		商店街（組合職員）	来客数の動き	・商店街に隣接する駐車場の駐車数が少しずつ減少している。1時間駐車無料券を出しても、商店街は非常に厳しい。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・前月同様、高額商品の売行きが悪く、安売品の単品購入が目立っている。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・客足が伸びない。また客足のむらが大きい。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・お得意様の来店頻度が減少しており、まとめ買いがみられない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・九州新幹線開通効果、物産催事、子供関連大型催事、全店DM催事の開催により来店客数は下げ止まったが、特に婦人服、食品を中心に買上単価が伸び悩んでいる。一方、下旬のビッグブランドショップのオープンでは、連日行列ができ、順調に推移している。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・3月の福岡・天神地区は、前半こそ近隣の百貨店の新店がオープンし、一定の盛り上がりを見せたが、結果として天神地区全体の売上は大きくは伸びなかった。4月もこの傾向は続いており、前年並み、もしくは前年比減で推移している。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・客数は変わらないが、客単価が下落している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・景気全体としてはやや明るめであるが、業界内では競合が激化し、単価の下落が顕著になっている。BSEや鳥インフルエンザの問題も影響している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・総額表示導入により、特に食品において、値段が高いというイメージがついた。競合店を始め、総額表示で元の値段に合わせるという方針を取っている。青果の単価も下がっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・買上の量も増えていないし、週末にまとめ買いをする様子もない。週末になると売上が2～3%減少している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・総額表示の影響で来店客数が減少している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・相変わらず客数は前年を上回っているが、一品単価の回復が望めない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・全体的には、来場数は若干減少であるが、買上率が非常に厳しい。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・酒類販売新規店舗に関して2～3か月経過したが、依然売上の上昇に結び付いていない。客単価の上昇につながっていない。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・ヤングの来店客数は前年を上回っているが、ミセス、中年は前年比減である。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数、客単価の下落が著しい。
		家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・薄型テレビ等の高級品は売れているが、それ以外の物に変化はなく、全体では前年並みである。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・店頭来客数の減少。単価が大幅に下がっている。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・来客数、単価の動きはさほど変わっていないが、やはり商談に行き着くまでの時間がかかり長い。特に高額商品の購入に関しては慎重である。
自動車備品販売店（従業員）		単価の動き	・月末に来店客数が増えたが、身の回り品の購入が多く、単価が伸びない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・法人による一般宴会等の件数・単価がともに低迷する傾向にある。
		旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・海外旅行は、テロ、SARSで壊滅的であった前年は上回っているが、02年度の数値には戻っていない。ゴールデンウィークの日並びが昨年より良いため、国内旅行は前年を上回っている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売量は維持しているが、販売奨励金などが競合他社とともに高騰して、販促コストをかけないと売れなくなっている。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・若干の価格ダウンはあったが、依然として高値販売が続き、機種取替え需要が昨年より減少している。
		競馬場（職員）	単価の動き	・来客数の減少に加え、購買単価が相変わらず低い。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・物産展等の大型催事の来店客数は増えているが、催場以外、目的以外の物は全く買わないという傾向がますます強まっている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・春休み以降、平日だけでなく特に土日の街場への動員が少ない。ゴールデンウィーク前も大幅増には至らなかった。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・総額表示により、値ごろ感がなく、客の買物動向が変化している。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・客数が減っていないため消費支出自体はそう悪くはないようだが、総額表示に移行してからは確実に売上高が減少している。デフレに加え、企業間の競争も激化し、利益をおびやかしかねない。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・最も売上が高いのは、福岡市の繁華街にある店舗であり、客の中心は繁華街に勤める従業員である。しかし、最近飲食店の客が少ないため、早く閉店し従業員も早く帰っている。そうすると、時間があるため少し足を伸ばして24時間営業のスーパーで購入するようになり、コンビニエンスストアへの来客が減少している。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・郊外店が立地したことにより、中心部の人が少ない。	
	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・当店の入っている大型商業施設の近くに、相次いで別の大型量販店がオープンしたため、確実に商圏が狭まり、客数が減少した。	
	家電量販店（店員）	お客様の様子	・客の会話からは、「ボーナスが出るかどうか分からないので月払にしたい、金利手数料を払ってもやむを得ない。」という話が聞かれる。	
	住関連専門店（経営者）	単価の動き	・春のプライダル商品の動きが相変わらず悪く、客単価も下がっている。	
	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・3か月前、前年と比べても、宿泊・宴会・レストランのすべての部門で売上が減少している。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・タクシー利用客は昼夜とも減っているが、外食する人が増えている。	
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・見積案件が非常に少ない。ある場合も、受注するまでに時間がかかる。	
	悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	来客数の動き	・オーバーストア気味で、客が散らばっている。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・天神地区の来客が今月落ちている。自社の閉館・開店、競合店のリモデル等で大幅に天神地区の集客力は上がり、小売業・飲食業も多少は潤っていたが、今月に入りそれも一巡した。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・相変わらず来客数は少なく、売上も前年の50%に満たない。
企業動向関連	良くなっている	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注がさらに増えている。
	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月に入っても年度末の需要の余波が残っており、受注状況は比較的活発である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先等の状況から判断すると、少しずつ上向いている。景気としては上向きの方で進んでいる。
		鉄鋼業（経営者）	取引先の様子	・原材料、副資材価格が高騰し、メーカーは製品価格を引き上げざるを得ない。値上げした価格が徐々に需要家に浸透している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は多くなっているが、価格は大変厳しい。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連では、大手企業は非常に動きが活発になっている。部門によっては二極化しているが、全体的には良い方向に向かっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・新規の仕事が確実に増えている。また、複数の取引先から仕事の照会があり、好況感を持っている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・焼酎メーカーの動きが活発で、販売量は前年比120%で動いている。また、小売店の棚から、芋焼酎だけでなく麦まで消えるのではないかとという勢いで、消費者が買い込んでいる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・忙しく仕事をしている方が多く、以前のように仕事が少ないという声をほとんど聞かなくなった。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	取引先の様子	・取引金融機関の融資態度が、業績回復を受けて積極的になってきた。スタンスの転換を明言するところも一部にある。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鳥インフルエンザの影響で、販売量が前年比30%減である。本来なら春先の行楽シーズン、移動時期も重なって消費拡大するところであるが、本当に厳しい。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・食肉関係は低価格志向が強く、需要回復には至っていない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・一般の百貨店、量販店の流通業者は、以前に比べ大分落ち込んでいる。その他の小売店や外食産業あたりの状態は以前とあまり変わらない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・貸出の減少が続いている。
		広告代理店（従業者）	受注量や販売量の動き	・新聞折込広告の折込枚数は先月と変わらないが、業種による格差が広がり始めた。百貨店等の大型店は好調だが、不動産、衣料品販売等が低調である。すべての業種で好調とはいかない。
		やや悪くなっている	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子
	建設業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・工事請負件数はそこそこの水準であるが、受注金額が低く、売上が伸びない。
	農林水産業（従業者）		受注価格や販売価格の動き	・ピーマンの価格が前年比60～65%であり、大幅赤字である。
	雇用関連	良くなっている		
やや良くなっている		求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・今までは周辺企業の倒産が多かったが、ほとんどなくなり、少しずつ息づいている。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	求人数の動き	・景況感の好転に伴い、自社の求人誌を含め求人情報の掲載数が上向き傾向にある。雇用形態でみるとパート・アルバイトが特に増加している。正社員採用はインターネットからの応募が中心となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が着実に伸びている。
変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・例年4月は派遣社員の需要が伸びる月であるが、普通の月と変わらない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・正社員のみで派遣社員の受入れに関心のなかった企業が、社員の補充に派遣を検討する等、派遣社員に関する問い合わせが前年比20%ほど増加している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月に入り、派遣社員の求人数が横ばいである。ゴールデンウィーク明けの仕事量も少ない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・ライバルの大手求人誌がシェアを拡大していることから、マーケットそのものは広がっている。しかし、それが景気の拡大に直結しているかどうかは判断できない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・景気回復が言われているが、企業の宣伝広告活動はまだまだ消極的だ。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・底を打った感じはするが、いまだ回復基調にはない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・就職者数は上がってきているものの、新規求人が前年に比べ少ない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は増加しているが、臨時の求人が目立っており、景気についてはどちらとも言えない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・請負、派遣社員の求人の割合が高まっており、労働者の所得の増加は期待できない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	雇用形態の様子	・雇用形態は、相変わらずパート採用に移行気味である。
やや悪くなっている		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	-	-	-

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・販売量は前年同月比で大幅なプラスとなっている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・3か月前の平成16年1月は入域観光客数が前年同月比で落ち込んだ。また、前年の3月から6月は3月に米国によるイラク戦争の開始やSARS等の影響により観光入域客数が減少したが、今年の4月は団体観光客、修学旅行者等観光入域客数が順調に伸びており、当施設利用者数も前年対比で26%ほど増加している。
	やや良くなっている	百貨店（担当者）	販売量の動き	・春休みに入り、衣料品を中心とした売行き動向がより活発化している。主力衣料の回復が顕著で、3、4月における販売数が3か月前と比較して3～4%改善している。一部不振の子供服・紳士服を除くと婦人衣料においてはかなりの回復がみられることから、やや景気動向は良い方向に向かいつつある。懸念していた総額表示の影響は特にみられないが、食品の特売において200～300円の価格帯が若干影響を受けている。
			コンビニ（経営者）	来客数の動き
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・580～680円の高単価の弁当の売行きが好調に推移している。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	販売量の動き	・消費税込みの価格表示のスタートで上旬は売上ダウンの感があったが、観光客の足出は好調である。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	販売量の動き	・4月は例年、連休前で買い控えがあり来客数、単価が下落する傾向があるのだが、今年度については前年比で売上108%で好調な動きとなっている。
		観光型ホテル（商品企画担当）	販売量の動き	・4月の稼働率は、前年同月比で約6ポイント上昇しており、ゴールデンウィーク以前の個人予約が好調となっている。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きが活発化している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・見学会等の集客が好調であり、年内の住宅取得控除を念頭に、先月に加えて二世帯住宅の建替層の需要が増えている。また、第一次取得者層の土地探しが活発となっている。
	変わらない	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・衝動買いをする人があまりおらず、財布のひもはまだまだ固い。
			衣料品専門店（経営者）	来客数の動き
		家電量販店（副店長）	販売量の動き	・販売量が3か月前と比べて、90%前半で推移しており、客が購入する平均単価が下がり、利益も減少するなど、前年割れが続いている。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・前年同月比で来客数は増加しているが、低単価による集客が功を奏しているものであることから、ゴルフ場本来の景気回復といえない。しかし、業界全体としては来客数減少の傾向にあることを加味すると、引き続き良好と判断する。
	やや悪くなっている	乗用車販売店（総務担当）	お客様の様子	・来客数が減少している。
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・中心商店街では、観光客に動きはみられるが販売にはなかなか結び付かず、大変四苦八苦している状態で、一般客は例に漏れず大型店に行くので客の分散化が懸念される。	
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・低価格志向の消費者に、今回の消費税込み金額の表示により割高なイメージを与えてしまい、買い控え、値下げ交渉が一段と増えている。
企業 動向 関連	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・問い合わせ件数及び、受注件数が増えている。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新店舗オープン及び新規取引先増による売上が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	通信業（従業員）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・案件の規模は大きくなっているが、楽観視はできないことから、景気は横ばいの状況であると判断する。 ・新サービスの価格がこれまでの高速デジタル伝送やA T Mなどのサービスに比べ、高速かつ低料金に設定されていることから、新サービスへの変更依頼が増加している。また、4月から新たに法が改正され、第一種電気通信事業者と第二種電気通信事業者の区別がなくなったため、サービス約款料金にとられない相対取引が認められ、価格が下がる傾向にある。これらのことから、販売量は増えても売上増にはつなげっていない。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	
		不動産業（支店長）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・受注量や販売量が横ばいの状態である。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-
	良く なっている	-	-	-
雇用 関連	やや良く なっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・求人の打診が若干増え、また、単発だが10名単位の依頼があるなど、動きが少し活発になっている。 ・県内4社の求人誌掲載総件数は、2月5,948件、3月5,346件、4月4,837件と右下がりに減少しているが、各社それぞれ新卒企画や就職支援活動をしており、県内、県外企業ともに多数の協力、支援を得られたことから、掲載依頼件数は徐々に改善している。 ・新規求人数は3か月前に比べて78.7%増加しており、これらを産業別にみると、農林・漁業を除く、各産業全般で増加している。有効求人倍率は、0.44倍で3か月前と同水準となっている。 ・新卒採用の求人が増加傾向にある。
		求人情報誌制作会社（営業担当）	周辺企業の様子	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	
		学校[専門学校]（就職担当）	求人数の動き	
		学校[大学]（就職担当）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・観光業界の好調に支えられ、流通業界も持ち直しつつあるとのことであり、全体的に景況は良い。
	変わらない	-	-	-
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	